第Ⅲ章　遺　　構

1　双ヶ岡地域の遺構分布

当地域は右京区御室に位置する独立丘陵である双ヶ岡を中心として、東は宇多川、西は御室川、南は双ヶ岡三ノ丘まで、北は御室大内、住吉山の山際までの範囲である。この地域を西から鳴滝、宇多野、常盤、御室、花園の５地区に分け、さらに地区内を小地区（調査区）に分割した。以下、各地区別に検出した遺構の分布について報告する。

鳴滝地区（図版４・10・25　図10　表1）

この地区は御室川中流域にあたり、調査区は南から10-74・49・50、4-9・11に分かれる。検出した遺構の総数は44で平安時代に属するものが大半を占める。

10-74　調査区は鳴滝嵯峨園町、鳴滝中道町、鳴滝桐ヶ淵町、鳴滝蓮華寺町に該当する。調査区東端の一部が仁和寺院家跡に接する。検出した遺構数は16で土壙、溝、井戸、流路、版築、瓦窯がある。平安時代中期の遺構には井戸6、平安時代後期の遺構は溝3・7・12、瓦窯11、版築13があり、室町時代の遺構は井戸4がある。また平安時代後期の遺物包含層も15箇所で検出した。

溝3・7は同一の南北方向の溝で、北方で検出した溝2も埋土、位置関係から同一の南北溝である。溝の東では瓦窯11を検出した。窯は東西長約6mで、瓦、窯体片、凝灰岩を含む焼土層の堆積を確認した。窯の東約15mでは瓦を含む南北方向の溝12を検出した。この溝は窯に関連する遺構とみられる。また溝の東側で築地に伴うとみられる版築13（図版25-8）を南北道路で約10m以上にわたり確認した。

図９　双ヶ岡地域の地区割り（1:20,000）

10-49　調査区は鳴滝音戸山町、鳴滝藤ノ木町、鳴滝瑞穂町、鳴滝

嵯峨園町、鳴滝西嵯峨園町、常盤草木町に該当する。調査区南西端が平安時代の遺物散布地、北西が三瓦山古墳群に隣接する。検出した遺構数は22で、遺構には土壙、柱穴、溝がある。遺構の時期は平安時代前期のものが多い。また平安時代の遺物包含層を20箇所で検出した。

平安時代前期の遺構は、土壙22・30・31・38、柱穴35、溝37がある。前期の遺構は南半部に多く、遺物包含層も同様の傾向が認められる。調査区北半部では、平安時代の溝17・18・20を検出した。

10-50　調査区は鳴滝安井殿町、鳴滝藤ノ木町、鳴滝桐ヶ淵町、鳴滝瑞穂町に該当する。仁和寺院家跡に隣接しており、検出した遺構数は6で、土壙、溝、流路、路面がある。平安時代の遺構には溝、土壙、遺物包含層がある。

調査区北半部で検出した南北方向の溝41は出土遺物から平安時代後期と考えられ、当溝から

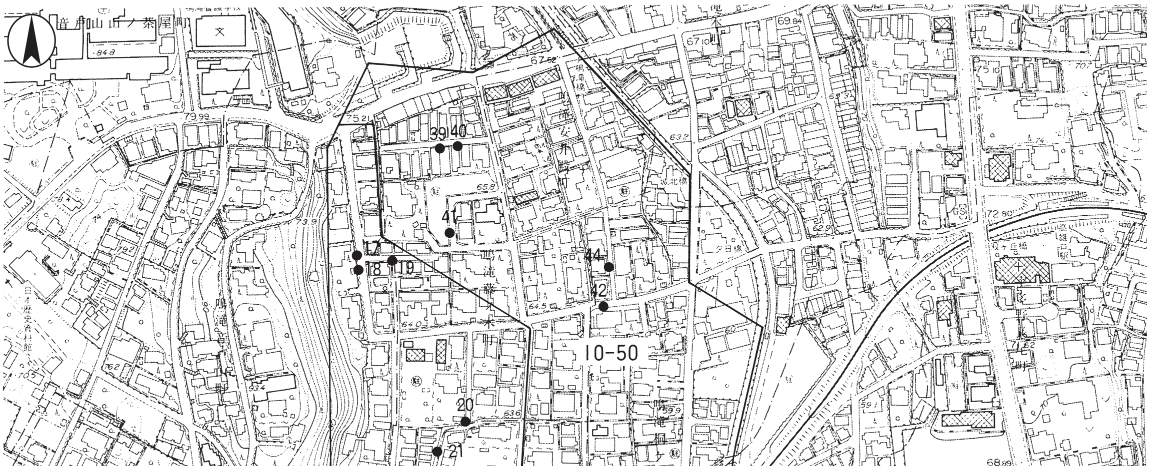


図10　鳴滝地区の遺構分布（1:5,000）

北約 50m で検出した溝 39 と埋土が類似していることから、両溝は同一の溝とみられる。溝の西側では平安時代の遺物包含層 44 を検出している。調査区南半部では、南北道路で路面 43 を検出した。調査区東部では、御室川の旧流路とみられる砂礫層の厚い堆積を確認している。

4-9　調査区は鳴滝泉谷町、鳴滝泉殿町、鳴滝本町、鳴滝蓮池町に該当し、史跡仁和寺御所跡に隣接している。遺構は検出できず、地山の確認にとどまった。

4-11　調査区は鳴滝川西町、鳴滝本町、鳴滝蓮池町に該当する。史跡仁和寺御所跡に隣接している。遺構は検出できず、地山確認にとどまった。

宇多野地区（図版 4・10　図 11　表 2）

この地区は御室川左岸中流域にあたる。西は鳴滝地区、東は御室・花園地区、南は常盤地区と接する。調査区は南から 10-58・51、4-10 に分かれる。検出した遺構数は 34 である。

10-58　調査区は宇多野法安寺町、宇多野長尾町、宇多野御池町、宇多野御屋敷町に該当し、調査区の東半部が仁和寺院家跡に推定される。検出遺構数は 23 で、時期は平安時代中期から江戸時代までである。

平安時代の遺構は、調査区北東部に多くみられ、遺物包含層も遺構と重複して確認している。検出した遺構には、平安時代中期の南北方向の石列 7・14 がある。石列 7 は石の径が 0.4m 前後で、南北に 7 個以上が並んでいるのを確認した。石列 7 から南西約 100m 離れた石列 14 は、

図 11　宇多野地区の遺構分布（1:5,000）

石の径が 0.9m で、南北に 10 個以上が並んでいるのを確認した。また、平安時代後期の池 17・18 を検出した。池の埋土は暗灰色泥土層で、同じ堆積層を南東部の 4 箇所で確認している。平安時代後期の南北方向の溝 2 は幅 3.4m、深さ 1.8m と比較的規模が大きい。この溝から南東約 100m で検出した東西方向の溝 13 も、幅 4.6m、深さ 1.05m で濠状を呈する。その他、調査区東半部では平安時代後期の南北方向の溝 6 を検出している。

10-51　調査区は宇多野馬場町、宇多野御池町、宇多野長尾町、宇多野福王子町、宇多野芝町、鳴滝本町、鳴滝桐ヶ淵町に該当し、仁和寺院家跡に隣接している。検出した遺構数は 6 で、溝、井戸、石列がある。遺構の時期は平安時代から江戸時代までである。

平安時代後期の遺構には井戸 25・27 があり、いずれも円形で素掘り井戸である。北半部で平安時代の遺物包含層を確認した。南半部では室町時代の円形で素掘り井戸 28 を検出している。

4-10　調査区は宇多野芝町、宇多野福王子町、宇多野上ノ谷町、鳴滝本町に該当し、史跡仁和寺御所跡に隣接している。検出した遺構数は 5 で柱穴、土壙、溝がある。遺構の時期は平安時代から室町時代後期までである。　　平安時代の遺構には土壙 33、南北方向の溝 34 がある。また溝 34 の南では土師器小片を含む焼土層の広がりを確認した。

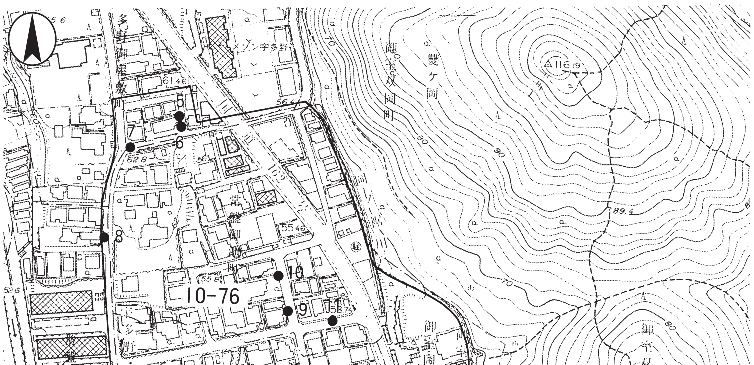


図 12　常盤 1 地区の遺構分布 (1:5,000)

常盤 1 地区 (図版 10　図 12 表 3)

この地区は双ヶ岡と御室川に挟まれた区域で、10-123・76 に分かれる。検出した遺構数は 17 で、遺構の時期は平安時代中期から江戸時代までであり、平安時代が主体である。

10-123　調査区は常盤古御所町、常盤音戸町、常盤山下町に該当し、仁和寺院家跡に推定される。検出した遺構数は 4 で平安時代の溝と井戸がある。

平安時代の南西方向の溝 1・2 は位置、規模、埋土から同一の溝と考えられる。溝の近接地では、同時期の遺物包含層を検出している。また溝 3 の南では、平安時代の円形で素掘りの井戸 4 を検出している。

10-76　調査区は常盤山下町、常盤御池町に該当し、仁和寺院家跡に推定される。検出した遺構数は 13 で、土壙、溝、井戸、流路があり、時期は平安時代中期から江戸時代までである。

平安時代中期の遺構は井戸 8、土壙 15、流路 16 がある。平安時代後期の遺構は東西方向の溝 9、南北方向の溝 11 がある。焼土壙 5・6 は幅を確認できなかったが、深さは共に 1.0m 以上で多量の土師器皿、焼土、焼石、炭が出土した。時期は 5 が平安時代後期、6 が室町時代で、共に土師器窯に関連する遺構とみられる。溝 9 の北では平安時代後期の土師器・軒瓦・鋳型片を含む遺物包含層 10 を検出した。

御室地区（図版 4・5・10　図 13　表 4）

この地区は府道仁和寺宇多野線（周山街道）の北に位置し、西は岡ノ裾川、東は仁和寺に挟まれた範囲と、仁和寺東限に接する南北道路が含まれる。調査区は 4-12 だけである。

4-12　調査区は宇多野北ノ院町、宇多野馬場町、御室大内に該当し、史跡仁和寺御所跡の西に隣接している。検出した遺構数は 17 で、土壙、溝、遺物包含層がある。遺構の時期は平安時代中期から後期までである。

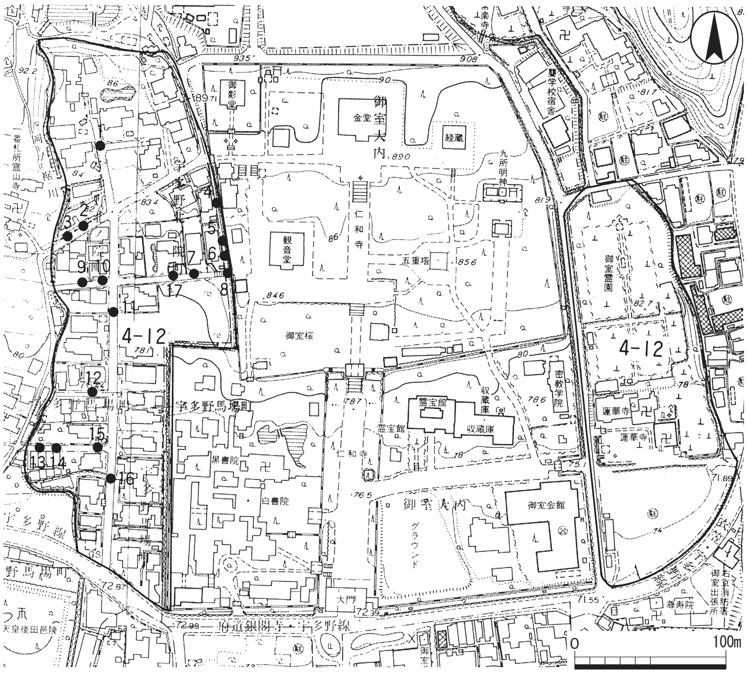


図 13　御室地区の遺構分布 (1:5,000)

平安時代中期の遺構は土壙 3 と南北方向の溝 10 がある。平安時代後期の遺構は西半部に多い。南北方向の溝 4・8 は断面形が V 字状で、埋土も類似しており同一の溝とみられる。溝の方位は西に傾き、東接する仁和寺西築地塀と同一である。調査区北半で検出した東西方向の溝 1 は、低部に石が敷かれる。溝 2・9 は南北方向の溝で規模、溝内の堆積層も類似し、同一の溝とみられる。他に平安時代後期の土壙 12・16 がある。また溝 7 の西で平安時代後期の遺物包含層 17 を検出した。

花園地区（図版 10・11・25 図 14 〜 16 表 5）

この地区は妙心寺境内の全域を含み、西は双ヶ岡二ノ丘東麓、東は宇多川、北は仁和寺南、南は JR 嵯峨野線までの範囲で、10-57、11-6・12・43・56 の調査区に分かれる。検出した遺構の数は 373 で、遺構の時期は平安時代から江戸時代までである。

11-43　調査区は花園妙心寺町、花園寺ノ中町、花園大藪町に位置する妙心寺境内全域に該当する。調査区は平安京右京北辺・一条四坊にあたる。検出した遺構数は 163 で、土壙、柱穴、溝、

井戸、池、整地層で、遺構の時期は平安時代から江戸時代まである。

条坊関連の遺構には、正親町小路、土御門大路の南・北側溝がある。正親町小路南側溝である溝33は幅0.9m、深さ0.3mで、断面形はU字状を呈する。埋土はいずれも黄褐色砂泥層である。同北側溝である溝30は幅0.8m、深さ0.3mで、断面の形状は逆台形である。両溝からは共に10世紀前半に属する土師器が出土した。溝112は、土御門大路南側溝にあたる。幅1.8m、深さ0.45mで、埋土は茶褐色砂泥層である。溝53は土御門大路北側溝にあたる。溝は幅1.1m、深さ0.2mと浅く、削平を受けたものと考えられる。溝内からは10世紀前半の土師器が出土した。また土御門大路北側溝から北約10mで東西方向の溝61・73を検出した。両溝は幅2.4mから3.0m、深

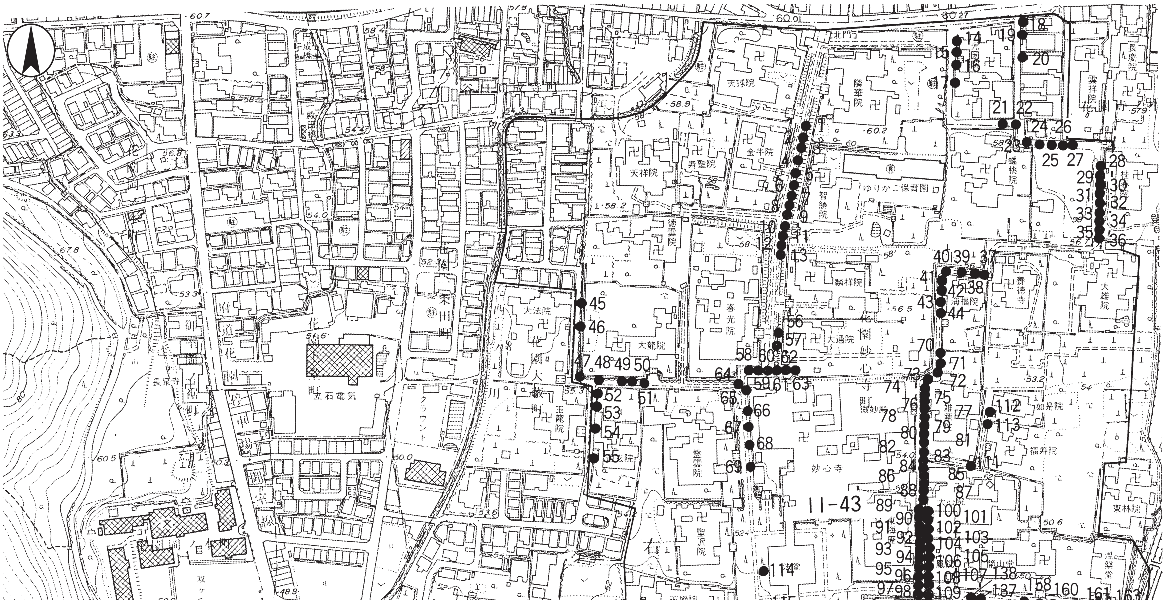


図14　花園地区の遺構分布1(1:5,000)

さ 1.5m 以上の規模で、濠と考えられる。濠の埋土は上層と下層に分かれ、下層からは 12 世紀後半、上層から 14 世紀の遺物が出土した。

鷹司小路の推定位置では、平安時代後期の池を検出した。規模は肩部である池 137・138・142・158 を繋いだ東西約 70m、南北約 50m で、深さは 2m 以上である。池 142 から 12 世紀後半の土師器が多量に出土し、下層から 10 世紀の遺物も出土している。平安時代の井戸は 8 箇所で検出した。井戸 89 は木枠痕跡から幅 1.7m、深さ 2.0m の方形木組井戸とみられる。埋土は 2 層で、上層が暗茶灰色泥砂、下層は暗灰色泥土層である。下層からは 12 世紀後半の遺物が出土している。

11-56　調査区は、花園段ノ岡町、花園宮ノ上町、花園内畑町、花園扇野町、花園寺ノ内町、花園伊町、花園寺ノ前町、太秦安井小山町に該当する。東半部が平安京右京一条四坊に、西半部は法金剛院に推定されている。検出した遺構数は 94 で、土壙、柱穴、溝、井戸、池、河川がある。遺構の時期は平安時代から江戸時代までである。

花園寺ノ前町（一条四坊十一町）では、11 世紀後半から 12 世紀後半にかけての遺構を検出した。遺構には井戸 208・211・219、土壙 228・229 がある。また遺物包含層も多くの地点で検出した。他に室町時代中期の土壙 213・214・215、溝 216、また江戸時代の土壙 212、溝 210・218 がある。

花園宮ノ上町、花園扇野町、花園寺ノ内町（法金剛院境内）では、平安時代後期の土壙 174・180、溝 179・181・242・243、井戸 194・240、池 246 を検出した。また平安時代中期の溝 245 を検出している。

花園段ノ岡町、花園内畑町では平安時代後期の土壙 244・254・255、柱穴 251、溝 253、井戸

図 15　花園地区の遺構分布 2(1:5,000)

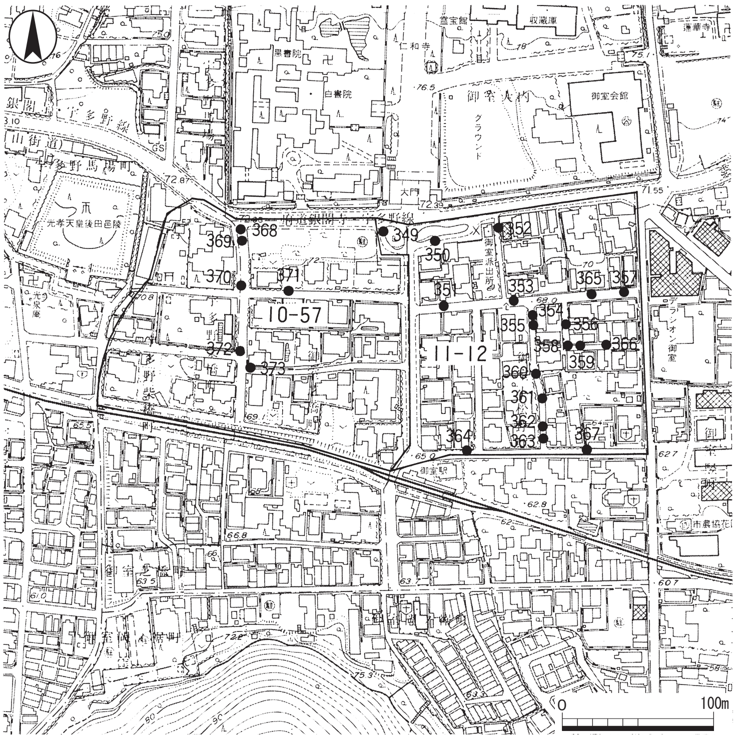


図 16　花園地区の遺構分布 3(1:5,000)

164、河川 248 を、また鎌倉時代の石組溝 170 を検出している。

11-6　調査区は龍安寺塔ノ下町、龍安寺西ノ川町、花園圓成寺町、花園天授ヶ岡町、谷口梅津間町に該当し、四円寺跡の円乗寺、円教寺に推定されている。検出した遺構数は 91 で、土壙、柱穴、溝、井戸、池、河川、整地土層で、遺構の時期は、平安時代中期から江戸時代までである。

円教寺に比定される花園天授ヶ岡町北部では 11 世紀前半から 12 世紀後半の土壙 300・301・304・307・309、柱穴 267・305・306、溝 292・293・294・296・303・310、井戸 299 を検出した。このうち溝 294・296・310 は同一の東西方向の溝、溝 266(図版 25-6)・293 は同一の南北方向の溝と考えられる。

谷口梅津間町では、10 世紀から 12 世紀の溝 341 ～ 343・345・346 を南北 200m にわたり検出した。溝は、幅 0.8m ～ 5m、深さ 2m 以上であった。また、妙心寺北門に接する一条通南側では、幅 2.2m、深さ 2m 以上の江戸時代の遺物を含む東西方向の濠 340 を検出している。

11-12・10-57　調査区は御室大内、御室小松野町、御室芝橋町に該当する。検出した遺構数は 25 で、土壙、溝、井戸、流路がある。時期は平安時代中期から江戸時代までである。

仁和寺南大門前の府道では、平安時代中期の南北方向の流路 350(図版 25 - 2) を検出した。幅は 21.5m、深さ 0.75m を測る大規模な流路で、南方の流路 351・364 も同一で、延長約 250m を確認した。流路 350 からは平安時代中期の緑釉瓦を主体に、多量の瓦類が出土した。

東西方向の溝 349・352・368 は規模、埋土、位置関係などから同一の溝と考えられ、延長約 170m を確認した。溝 349 では平安時代後期の遺物が出土している。南北方向の溝 369・370・372 も同一の溝と考えられ、南北約 100m にわたって確認した。

御室小松野町の東半部では、平安時代後期の遺構を多数検出した。検出した遺構には、土壙 354・356(図版 25-4)・358・359・361、溝 353・362、井戸 363 がある。土壙からはいずれも軒瓦を含む瓦類が多量に出土した。また平安時代後期の整地土とみられる遺物包含層 365 ～ 367 からも軒瓦が多量に出土した。他に平安時代中期の土壙 357・360 を検出している。

2　太秦地域の遺構分布

この地域の範囲は、現在の太秦を中心にして、鳴滝、梅ヶ畑、山越の山地を北限とし、南は梅津の桂川までとする。東は御室川と天神川を東限とし、西を広沢池から有栖川と桂川を限るものとする。

本報告では、この地域をさらに、常盤を３地区、太秦を６地区、嵯峨野を１地区、梅津を２地区に区分する。報告する遺構の分布は、地区を越えた広がりを持つもの、地区内で重複するものがある。このため地区を単位とするが、遺跡の範囲を考慮し、多数の遺構が検出された太秦地区

図17　太秦地域の地区割り（1:20,000）

や常盤地区では、複数の遺構分布図を作った。分布図の位置については、太秦地域の地区割り (図17) に明示している。また「仮称」とした遺跡は、本調査で発見したもので、第Ⅴ章の 2 で言及している。

常盤 2 地区では、村ノ内町遺跡・常盤東ノ町古墳群、常盤 3 地区では、草木町遺跡・巽古墳、常盤 4 地区では、南野古墳群を報告する。

太秦 1 地区では、上ノ段町遺跡・仲野親王陵古墳、太秦 2 地区では、和泉式部町遺跡・森ヶ東瓦窯、太秦 3 地区では、多藪町遺跡、太秦 4 地区では、常盤仲之町遺跡・広隆寺旧境内・一ノ井遺跡、太秦 5 地区では、西野町遺跡・御所ノ内町遺跡・史跡蛇塚古墳、太秦 6 地区では、太秦馬塚町遺跡 (仮称) を報告している。

嵯峨野地区では嵯峨野高田町遺跡 (仮称)、梅津 1 地区では梅津坂本町遺跡 (仮称)、梅津 2 地区では梅津中倉町遺跡 (仮称)、梅津中村町遺跡 (仮称) を報告する。

常盤 2 地区 (図版 11・16　図 18　表 6)

この地区は、新丸太町通と府道宇多野吉祥院線を中心にして、北西を御室川、南を JR 嵯峨野線、東を国道 162 号線、西を京福電鉄北野線で囲む範囲である。

調査 10 - 96 では 1 ～ 12、調査 10-101 では 50 ～ 66、調査 10-112 では 38・39、調査 10-118 では 13 ～ 37、調査 10-182 では 40 ～ 49 の各遺構を検出した。

検出した遺構は、弥生時代中期、古墳時代前期・後期、平安時代中期・後期のものがある。

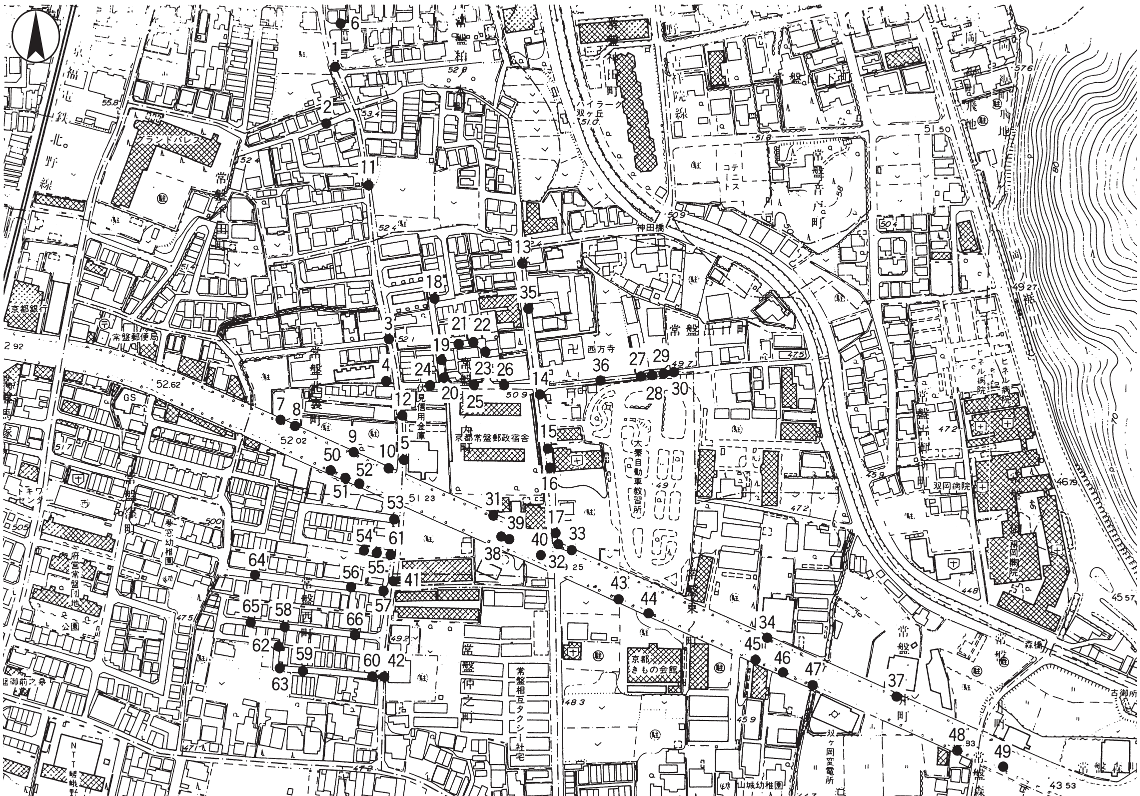


図 18　常盤 2 地区の遺構分布 (1:5,000)

弥生時代中期の遺構は、常盤村ノ内町、常盤北裏町を中心にした調査 10-118 で検出したもので、溝 21・26 などがある。

古墳時代前期の遺構は、常盤西町、常盤仲之町西半の調査 10-101 で検出した。溝 57 は南北溝で、規模は幅 4.0m、深さ 0.5m である。土壙 60 は幅 2.5m、深さ 0.2m である。また常盤西町では遺物包含層 59 を検出している。古墳時代後期の遺構は常盤東ノ町の調査 10-118 で検出した。溝 17 は南北溝で、幅は不明、深さ 1.0m。古墳周溝 32・34 はそれぞれ幅 0.5m、深さ 1.4m、幅 2.5m、深さ 1.0m である。また常盤東ノ町の調査 10-182 では、遺物包含層 46・47 を検出している。

平安時代中期の遺構は、常盤出口町の調査 10-118 で検出した。柱穴 30 の規模は、径 0.3m、深さ 0.2m である。また同町一帯で遺物包含層 27 ～ 29・36 を検出している。平安時代後期の遺構は、調査 10-101 で検出した溝 54 がある。南北方向の溝で、幅 1.0m、深さ 0.3m を測る。同調査で、常盤西町を中心にして隣接する各町でも遺物包含層 49・54 ～ 56・58・61 ～ 63 を検出している。

その他、平安時代の溝・遺物包含層を常盤村ノ内町、常盤西裏町、常盤西町一帯で検出している。常盤村ノ内町の調査 10-112 では、約 3m を隔てて平行する南北方向の溝 38・39 を検出した。両溝とも同規模で、幅 1.5m、深さ 0.9m を測る。また、常盤村ノ内町と常盤東ノ町の町界となる南北道の調査 10-118 で、厚さ 0.2m から 0.4m の堅く締まった路面 14 ～ 16 を検出した。

常盤 3 地区 (図版 9・10　図 19　表 7)

この地区は、北側を音戸山の山地で、南側を府立嵯峨野高校の南側道路で囲み、北西に文徳天皇田邑陵、南東に京福電鉄常盤駅がある。市立常盤野小学校はその中心に位置している。

調査 9-19 では 46 ～ 65、調査 10-49 では 19 ～ 40・66 ～ 72、調査 10-96 では 9 ～ 18、調査 10-101 では 1 ～ 8、調査 10-139 では 41 ～ 45 の遺構を検出している。

検出した遺構の時代は、古墳時代後期、平安時代前期・後期、室町時代中期のものがある。

古墳時代後期の溝 46 は、山越巽町にある巽古墳に近接した道路の調査 9-19 で検出した。幅 0.7m、深さ 0.6m を測る。

平安時代前期の遺構は調査 10 ‐ 49 の土壙 26・27・30・39、溝 31、柱穴 32・33 がある。土壙 26 の規模は幅 1.1m、深さ 0.4m である。溝 31 の規模は幅 5.5m、深さ 1.1m を測る。また遺物包含層 19・29・35・40・62・66・67・70・71 を検出した。常盤草木町、鳴滝春木町を中心にして、太秦京ノ道町、常盤下田町、常盤窪町、鳴滝嵯峨園町、鳴滝西嵯峨園町で検出している。後期の遺構は、調査 10-139 で土壙 44、溝 45 がある。溝 45 の規模は幅 0.9m、深さ 0.4m である。常盤草木町南辺では遺物包含層 42 を検出している。

また鳴滝嵯峨園町の調査 10-49 で、0.3m の厚さで堅く締まった路面 28 を検出した。その他、平安時代の土壙・溝を検出した。遺物包含層は、常盤草木町を中心にして周辺各町にまたがって検出した。

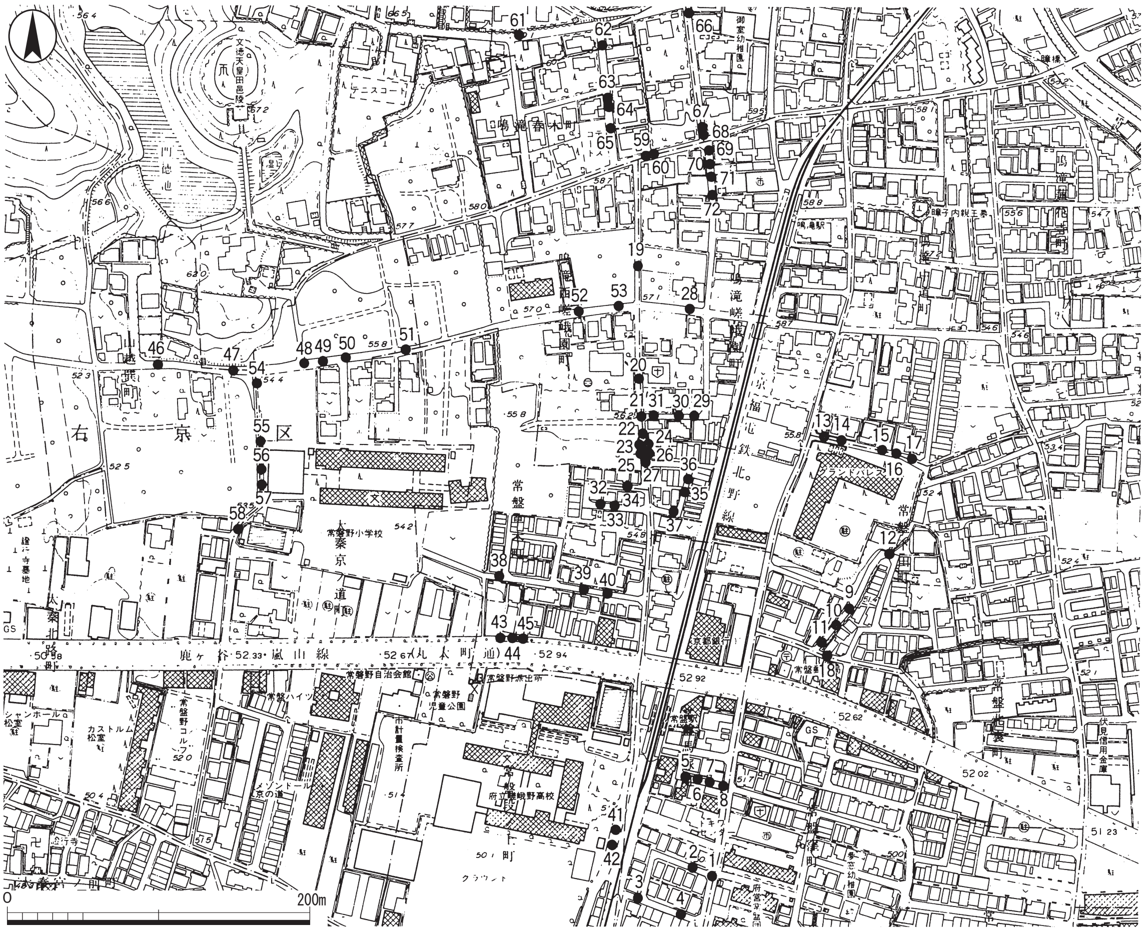


図 19　常盤 3 地区の遺構分布（1:5,000）

図 20　常盤 4 地区の遺構分布（1:5,000）

常盤 4 地区

（図版 9・10　図 20　表 8）

この地区は、北東を音戸山、北西を広沢池、南側を新丸太町通で限る範囲である。

調査 9-14 では 1 ～ 13、調査 9-21 では 14 ～ 17、調査 9-25 では 18 ～ 22 の遺構を検出した。また調査 8-62 でも遺構を検出している。

検出した遺構の時代は、古墳時代後期、平安時代前期・後期のものがある。

古墳時代後期の遺構は、調査 9-14 で溝 13 を検出した。円弧を描き、幅 3.4m、深さ 0.5m を測る。堆

積土は茶褐色泥砂層である。

平安時代前期の遺物包含層14は、調査9-21の嵯峨広沢南野町北辺で検出している。また後期の土壙15～17を､同調査の嵯峨広沢南野町東辺で検出した。土壙17は幅3.4m､深さ0.5mを測る。

その他、平安時代と推定できる遺物包含層9を、調査9-14の嵯峨広沢北下馬野町南辺で検出している。嵯峨池下町南部で、平安時代の遺物包含層を検出した。また0.1～0.4mの厚さで堅く締まった路面1～5・6～8・18～22を、調査9-25の嵯峨広沢池下町と嵯峨広沢北下馬野町の町界、嵯峨広沢南野町の町界道路下で検出した。

太秦1地区(図版9・15・16　図21　表9)

この地区は、市立蜂ヶ岡中学校を中心にしている。北西の段丘に仲野親王高畠墓が位置する。南東に京福電鉄帷子ノ辻駅があり、西は有栖川が南流する範囲である。

調査9-33では29～33、調査9-38では27・28、調査9-39では6～26、調査15-6では1～5の遺構を検出した。

検出した遺構の時代は古墳時代中期・後期、平安時代に属するものがある。

古墳時代中期の遺構は、調査15-6の太秦垂箕山町で検出した仲野親王陵古墳に伴う溝4・5がある。いずれも幅3.0m、深さ1.5m以上を測る。また溝4の東壁面に幅0.2m、長さ1.5mの噴砂痕跡を検出している。古墳時代後期の遺構は土壙31がある。幅は不明であるが、深さ0.7mの規模である。また調査9－33・39、調査15-6では、嵯峨野開町南辺と蜂ヶ岡中学校南側道路、太

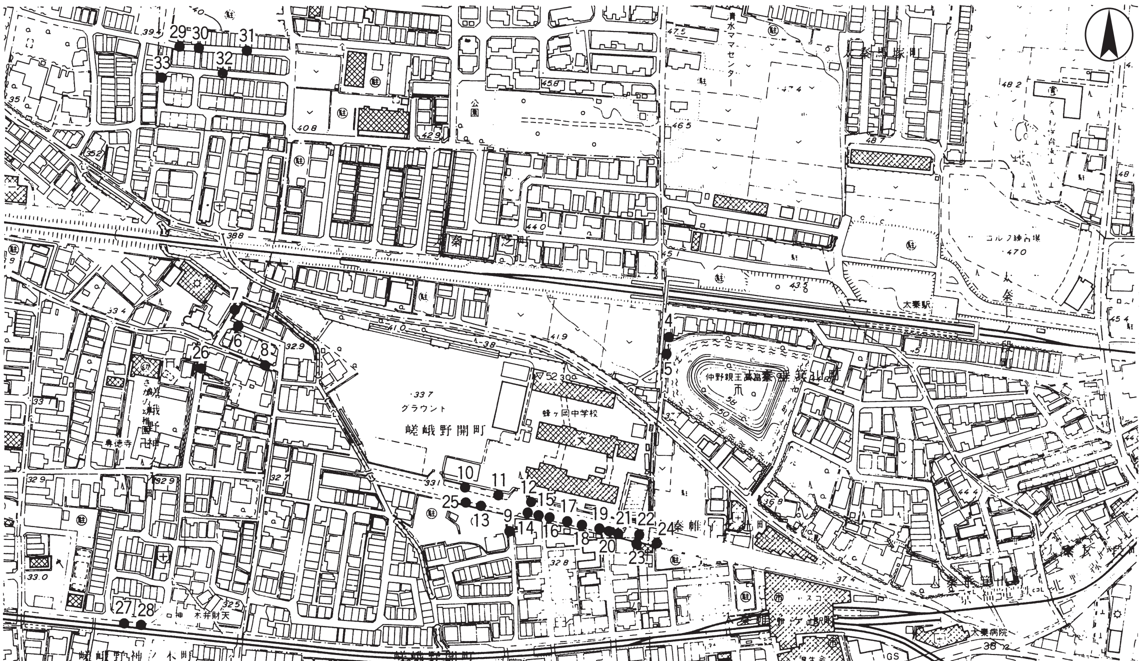


図21　太秦1地区の遺構分布(1:5,000)

秦乾町南西部で、遺物包含層1～3・11・12・29・30・32・33を検出している。

その他、平安時代の遺物包含層を、嵯峨野開町北西辺、同町中央部、嵯峨野神ノ木町南部で検出している。

太秦2地区（図版10・11・16・17・22　図22　表10）

この地区は、中心に蚕ノ社（木嶋坐天照御魂神社）がある。北を双ヶ岡三ノ丘、南を京福電鉄嵐山線で限り、東は御室川、西を府道上桂線で限る範囲にある。

調査11-102では1～19、調査11-112では20～35、調査10-199では36～60の遺構を検出した。

遺構の時代は、古墳時代前期・後期、平安時代中期・後期に属するものがある。

古墳時代前期の遺構は、調査11-102・112で竪穴住居9・10・25～30・32・35、土壙6・31・34、溝7・8・11・13～15・18・21～24、柱穴33を検出している。竪穴住居9・10は一辺5.8m、深さ0.2mを測る同一の住居で、9が北側、10が南側である。竪穴住居25は一辺6.0m、深さ0.3m。竪穴住居29は一辺8.0m、深さ0.3m。竪穴住居30は一辺7.0m、深さ0.3m。竪穴住居35は一辺7.0m、深さ0.2mを測る。土壙6の規模は幅1.1m、深さ0.2m。土壙31は幅1.7m、深さ0.2m。土壙34は幅1.1m、深さ1.0mである。溝7は幅0.6m、深さ0.2m、溝8は幅0.9m、深さ0.2mを測

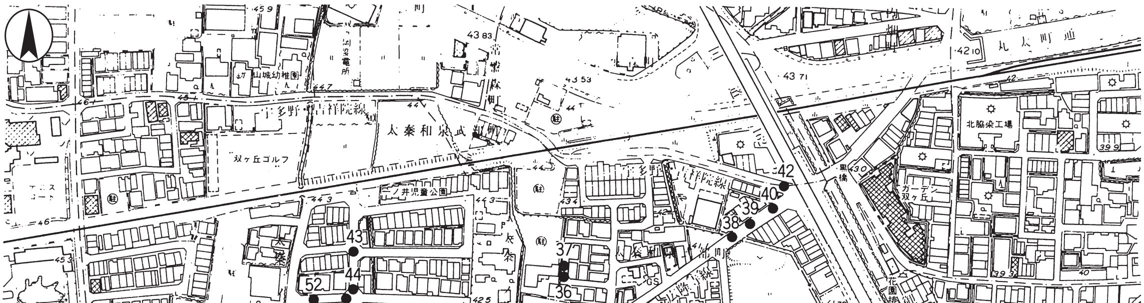


図22　太秦2地区の遺構分布（1:5,000）

る。いずれも東西方向の溝である。溝 15 は東西方向で、幅 4.0m、深さ 0.4m。溝 18 は南北方向で、幅 1.8m、深さ 0.6m。溝 13・14 は同一溝の西と東の肩口で幅 7.5m、深さ 1.2m を測る。溝 11 は幅 1.7m、深さ 0.6m を測る。溝 23・24、溝 22・21 はそれぞれ同一の溝の北肩、南肩である。溝の方向は北東から南西を向く。溝 23・24 は幅約 10m、深さ約 0.6m、溝 22・21 は幅 10m、深さ 1.3m の規模を測る。柱穴 33 は径 0.3m、深さ 0.4m を測る。また、太秦和泉式部町南部、太秦森ヶ西町東部、太秦森ヶ東町西北部で遺物包含層 3 〜 4・36 を検出した。検出した竪穴住居は、太秦森ヶ西町東部、森ヶ東町北西部に集中する。土壙の分布する範囲は、竪穴住居の分布範囲と重なり、しかも竪穴住居に近接した地点で検出した。

古墳時代後期の遺物包含層 52・56 は、厚さ約 0.7m の茶褐色砂泥層で、調査 10-199 の太秦一ノ井町中央南部で検出した。

平安時代中期の遺構は、調査 11-102・112、調査 10-199 で土壙 1・2・16・17・38 を検出した。土壙 1・2 は共に幅 10.0m、深さ 0.4m を測る。埋土に多量の軒瓦類を含む。16 は幅 1.0m 以上、深さ 0.3m を測る。17 は幅 3.3m 以上、深さ 0.4m を測る。遺物包含層 39・40 は太秦森ヶ東町北辺部、太秦和泉式部町東辺部で検出している。いずれも森ヶ東瓦窯に関係する遺構と考えられる。遺物包含層 46・47・55 は太秦垣内町北部、太秦一ノ井町中央部で検出した。一ノ井遺跡の東辺と南辺に分布する。また同調査で平安時代後期の土壙 19・20 を検出した。それぞれ幅 1.5m、深さ 1.0m、幅 0.5m、深さ 0.2m を測る。遺物包含層 41・50・53・58 〜 60 を太秦垣内町北部、太秦一ノ井町中央部で検出したもので、平安時代中期の遺構群と重なる。遺物包含層 41 は、太秦和泉式部町南西辺で検出した。

その他、平安時代の土壙と遺物包含層を、太秦一ノ井町中央部で検出している。また堤・路面 42 を調査 10-199 で検出している。堤の規模は、厚さ 4.0m 以上を測る。上部に路面の堆積層が確認できる。御室川の旧流路に伴う堤と古道が重なる遺構である。

太秦 3 地区 (図版 15・16・26・28　図 23　表 11)

この地区は、市立太秦中学校を中心にして、北東に広隆寺、南西に史跡蛇塚古墳がある。北西に京福電鉄帷子ノ辻駅、南を西高瀬川で囲む範囲である。

調査 16-67 では 18 〜 60、調査 16-70 では 1 〜 17、調査 15-8 では 61 〜 75 の遺構を検出した。検出した遺構の時代は、古墳時代後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、室町時代に属する。

古墳時代後期の遺構は、調査 16-67・70 で検出した土壙 15・46、溝 30、柱穴 52 がある。溝 30 は幅 10.0m 以上、深さ 1.0m。北西方向からの流路である。土壙 15 の規模は幅 1.1m、深さ 0.5m。土壙 46 は幅 1.1m、深さ 0.2m を測る。柱穴 52 は幅 0.3m、深さ 0.4m を測る。遺物包含層 14・20・44・50・51 は太秦多藪町中央部、太秦石垣町で検出した。遺物包含層 58・67・68・70 は、調査 15-8、調査 16-67 の太秦堀ヶ内町東部で検出している。

飛鳥時代の遺物包含層 31 は、調査 16-67 の太秦多藪町中央部で検出した。

奈良時代の遺構は、調査 16-67 で検出した土壙 21・22・29・54 がある。土壙 21・22 の規模は、

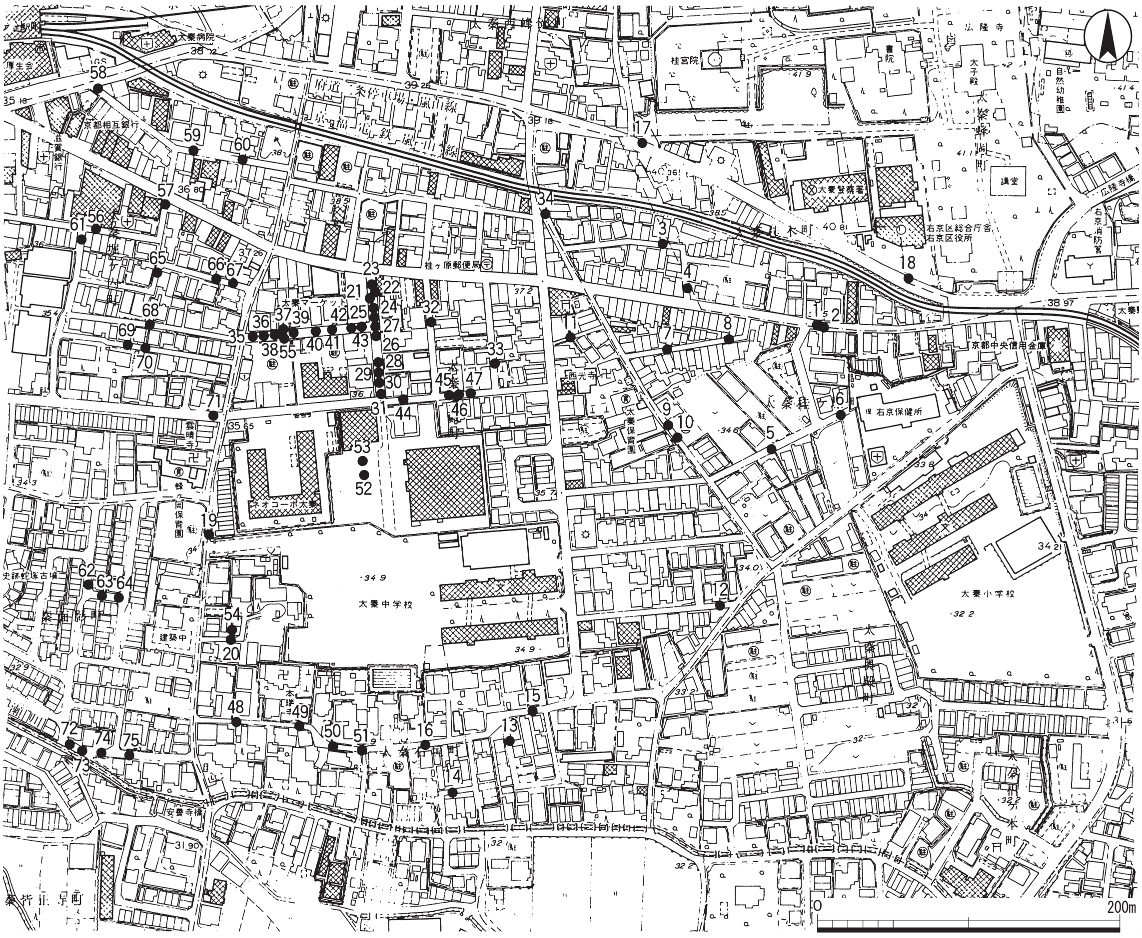


図 23　太秦 3 地区の遺構分布 (1:5,000)

いずれも幅 0.7m、深さ 0.6m を測る。土壙 29 は幅 1.0m、深さ 0.6m、土壙 54 の幅は不明で深さは 0.6m を測る。また遺物包含層 23 ～ 28・31・42・45・66 を調査 16-67、調査 15-8 で検出した。太秦多藪町中央部から太秦堀ヶ内町東部、太秦石垣町西辺で確認した。

平安時代前期の遺構は、調査 16-67 で検出した土壙 37 がある。幅 3.3m、深さ 1.3m を測る。遺物包含層 12・65 は調査 16-67・70 の太秦多藪町北西部と太秦堀ヶ内町東部で検出している。平安時代中期の遺構は調査 16-70 で検出した柱穴 10 がある。規模は幅 0.3m、深さ 0.3m である。遺物包含層 9・16・65 は調査 16-70、調査 15-8 の太秦桂ヶ原町、太秦石垣町東部、太秦堀ヶ内町東部で検出した。平安時代後期の遺構は、調査 16-67 で検出した土壙 19、柱穴 39 がある。土壙 19 の規模は幅 0.4m、深さ 0.5m。柱穴 39 は幅 0.2m、深さ 0.4m を測る。また、遺物包含層 4・6・8・11・34 ～ 36・40・55・72 ～ 75 を検出した。太秦桂ヶ原町、太秦桂木町全域、太秦多藪町中央部、太秦面影町南東辺に分布する。

室町時代の土壙 3 は、調査 16-70 で検出した。幅 2.7m、深さ 1.5m 以上の規模を測る。土壙内から多量の完形の土師器・陶器皿が出土した。

太秦 4 地区 (図版 10・16・26・28　図 24　表 12)

この地区は、広隆寺を中心にして、北を新丸太町通の南側で、南を京福電鉄嵐山線で限る。東

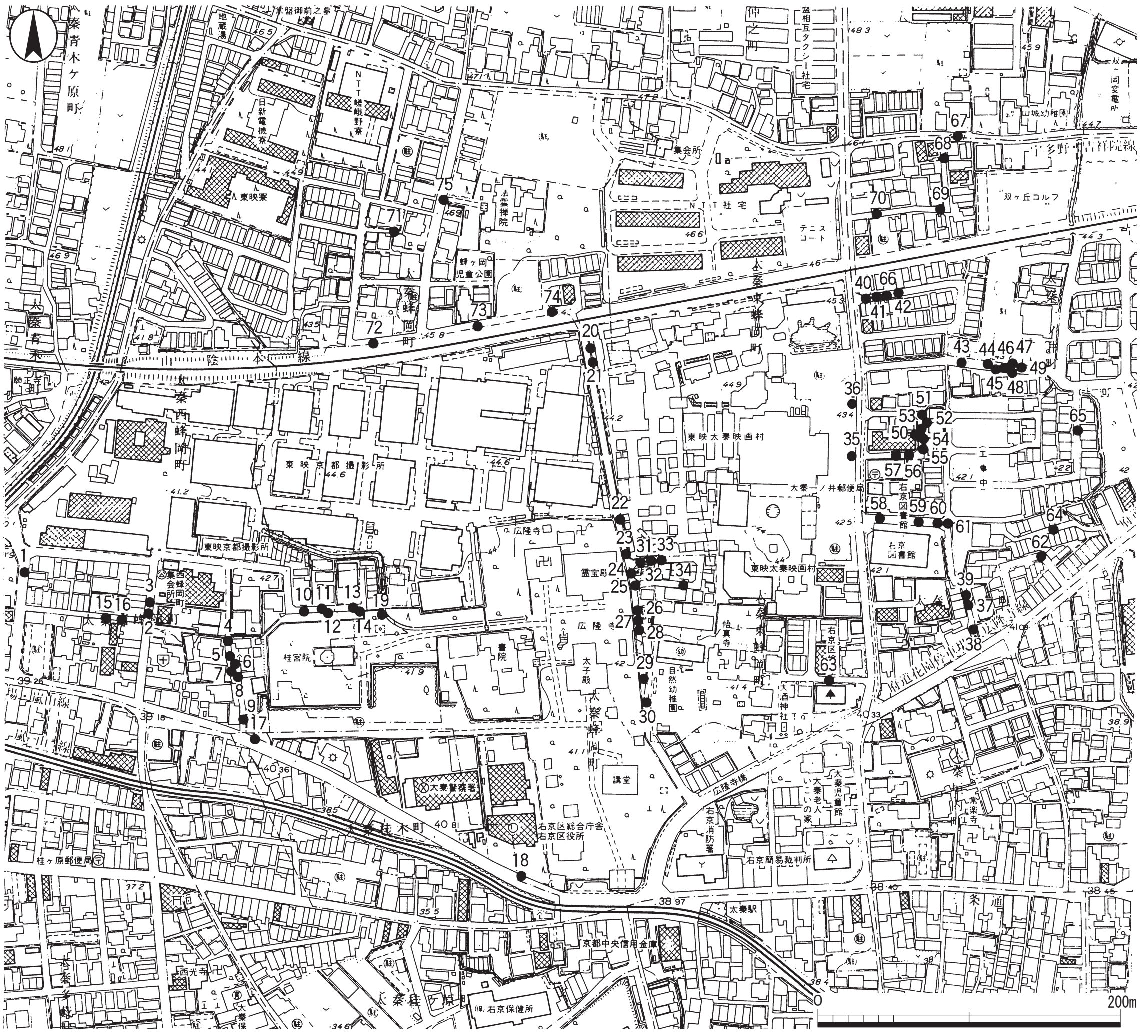


図 24　太秦 4 地区の遺構分布（1:5,000）

は府道宇多野吉祥院線の東側一帯を含み、西を京福電鉄北野線で囲む範囲である。

調査 10-176 では 20 ～ 34、調査 10-196 では 35 ～ 75、調査 16-46 では 1 ～ 19 の遺構を検出した。遺構の時代は、古墳時代後期、奈良時代、平安時代に属するものがある。

古墳時代後期の遺構は、調査 10-196 で検出した溝 40 がある。幅 4.6m、深さ 0.5m を測る。太秦一ノ井町北西部で検出した。奈良時代の遺物包含層 45 ～ 47・58 は、同調査の太秦一ノ井町中央西部に検出した。

平安時代前期の遺物包含層 1・24 ～ 26 は、調査 10-176、調査 16-46 の太秦西蜂岡町西部、太秦蜂岡町中央東部で検出している。平安時代中期の遺構は、調査 10 - 196 で検出した溝 35・36 がある。同一の南北溝で、両地点間は約 50m を測る。いずれも規模は幅 3.0m、深さ 1.1m 以上。太秦東蜂岡町中央東辺で検出している。遺物包含層 28・42・44・61・63 を、調査 10-176・196 の太秦一ノ井町中央部で検出している。平安時代後期の遺構は、土壙 39、溝 57・59、遺物包含層 1・4・5・9・13・17・26・41・53・55・62 を、調査 10-176・196、調査 16-46 の太秦西蜂岡町西部、太秦一ノ井町中央部で検出している。溝 57 の規模は、幅 1.5m、深さ 0.3m。溝 59 は幅 0.5m、深さ 0.5m を測る。

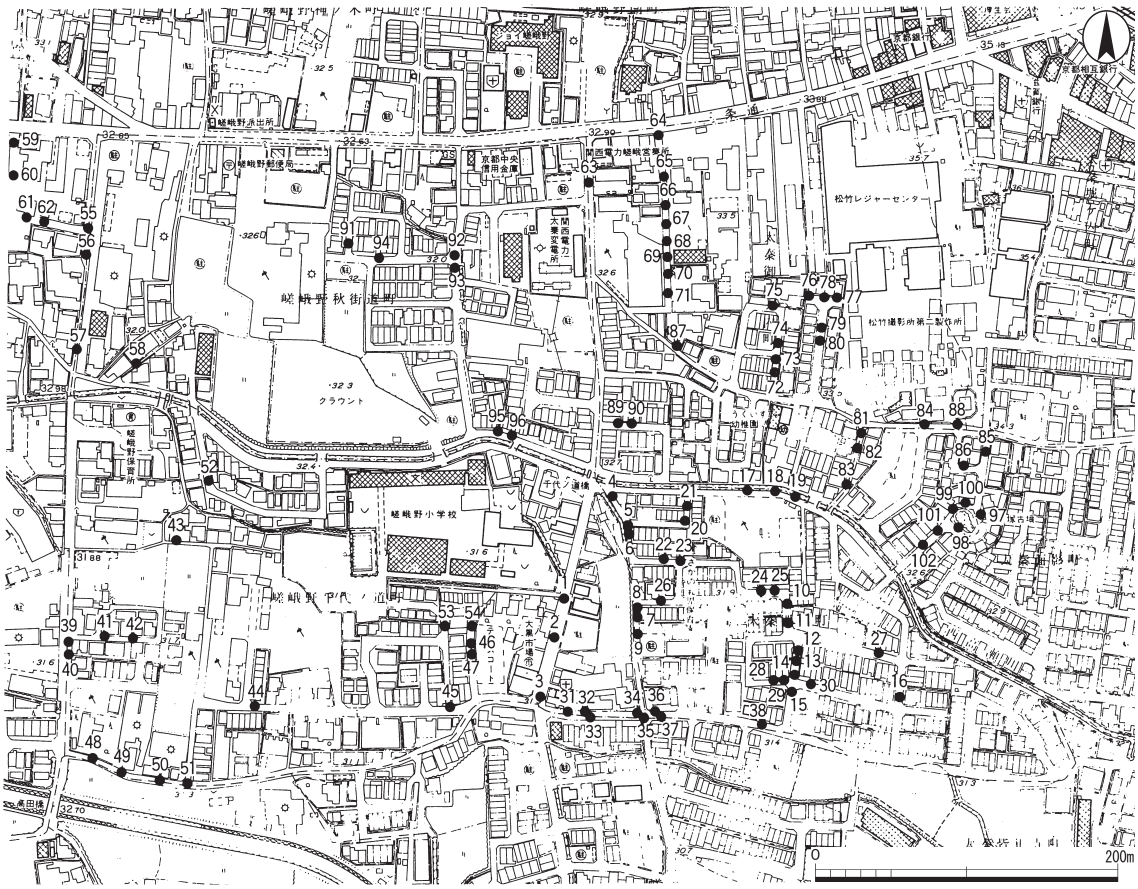


図 25　太秦 5 地区の遺構分布 (1:5,000)

その他、平安時代の土壙、溝、井戸、遺物包含層などを、調査 10-176・196、調査 16-46 で検出した。土壙 32 は太秦蜂岡町中央東辺、土壙 33 は太秦東蜂岡町中央西辺で検出している。また井戸 50・51 は、太秦一ノ井町中央部で検出している。井戸 50 の規模は、幅 1.8m、深さ 1.1m。井戸 51 は幅 2.0m、深さ 0.8m を測る。

太秦 5 地区 (図版 15・16・26　図 25　表 13)

この地区は、北を京福電鉄嵐山線、南は有栖川で限る。東辺に史跡蛇塚古墳があり、西を府道嵯峨野西梅津線で囲まれた範囲である。

調査 15-5 では 59 ～ 62、調査 15-7 では 55 ～ 58・91 ～ 96、調査 15-8 では 63 ～ 90・97 ～ 102、調査 15-9 では 39 ～ 54、調査 15-22 では 1 ～ 38 の遺構を検出している。検出した遺構の時代は、弥生時代、古墳時代前期・後期、飛鳥時代、奈良時代、平安時代に属するものがある。

弥生時代の遺物包含層 41・42・47 を、調査 15-9 の嵯峨野千代ノ道町西辺と東辺で検出した。

古墳時代前期の遺物包含層 44･46･52 ～ 54 を、調査 15-9 の嵯峨野千代ノ道町一帯で検出した。古墳時代後期の遺物包含層 7・9・97 ～ 102 は、調査 15-8・22 の太秦西野町西辺と太秦面影町西部で検出している。太秦面影町西部の遺物包含層 97 ～ 102 は、史跡蛇塚古墳に関係したもので、古墳封土下に遺物包含層を検出している。

飛鳥時代の遺構は、調査 15-22 で検出した溝 12 がある。幅は不明、深さ 0.3m を測る。また遺

物包含層10・11を、同調査の太秦西野町中央部で検出している。

奈良時代の遺構は、調査15-22で検出した土壙3・13・14・26、溝25がある。土壙3の規模は、幅0.8m、深さ0.5m以上。土壙13は幅3.5m、深さ0.2m。土壙14は幅1.2m、深さ0.2m。土壙26は幅0.7m、深さ0.4mを測る。溝25は南北溝で、幅1.5m、深さ0.5mの規模である。嵯峨野千代ノ道町東辺と太秦西野町西部で検出した。また遺物包含層2・4～6・15～24・26・28・31・34・37を、同調査で確認している。しかし遺物包含層78は、調査15-8の太秦御所ノ内町中央部で検出している。

平安時代前期の遺物包含層45・48・51・53・76・77を、調査15-8・9の嵯峨野千代ノ道町南辺と太秦御所ノ内町中央部で検出している。平安時代中期・後期の遺物包含層68・72・79・80・89～91・94を、調査15-8の太秦御所ノ内町中央部と嵯峨野秋街道町東部で検出した。

その他、古墳時代の土壙と遺物包含層を、嵯峨野千代ノ道町東辺と太秦西野町西部に検出している。平安時代の土壙32・33、溝34・43、井戸50・51、遺物包含層6～8・12・15・27・31・68・72・74・75を、調査15－8・9・22の嵯峨野千代ノ道町西端、太秦面影町西北端、太秦御所ノ内町全域、嵯峨野秋街道町東部、嵯峨野宮ノ元町東部で検出した。また堅く叩き締まった路面55・56を、調査15－7の嵯峨野秋街道町西端道路下に検出している。

太秦6地区（図版9・10・15　図26　表14）

北は新丸太町通で限り、南は仲野親王高畠墓と市立蜂ヶ岡中学校で限る。東は京福電鉄北野線、西は有栖川が西から南に曲がる地点までを含む地区である。

調査9-29では10～23、調査9-33では124～192、調査9-36では68～105、調査9-37では106～123、調査9-45では1～9、調査10-139では24～67の遺構を検出した。検出した遺構の時期は、古墳時代後期、平安時代後期に属したものがある。

古墳時代後期の遺構は、調査9-33で土壙137を検出している。幅は不明、深さ0.7mの規模である。遺物包含層133・134・143・151は太秦乾町南西辺で検出した。

平安時代後期の遺構は、土壙24・27・28・40・42・43・72・73・77・78・82・85～92・94～105・110・114～116・120・128・173～175・180・183～186・188～191、溝46を、調査9-33・36・37、調査10-139で検出している。土壙27は、幅1.8m、深さ0.6mを測る。この土壙から完形の土器6点が出土している。土壙72は、幅1.0m、深さ0.8mを測る。土壙墓とみられる土壙の肩口はほぼ垂直で、底面を平坦にする。土壙は、長径1.7m前後と1.0m前後の規模を持つ2種類がある。溝46は、南北方向の溝で幅0.8m、深さ0.7mを測り、太秦青木元町南部で検出した。土壙は、太秦青木ヶ原町、太秦青木元町、太秦宮ノ前町、太秦乾町の全域、常盤段ノ上町南端、太秦京ノ道町南部、太秦北路町南部、太秦開日町南部、太秦中筋町北部、嵯峨野嵯峨ノ段町東部と南東部、太秦一丁芝町西部、太秦垂箕山町東部で検出している。遺物包含層10～19・25・29～32・34・37・39・54～56・58～61・65～67・69・70・74・79～81・84・113・117・118・123・127・129・135・136・139・140・165～169・171・176～179・181・182を、

図 26　太秦 6 地区の遺構分布（1:5,000）

同調査で検出している。嵯峨広沢南野町南辺、嵯峨野嵯峨ノ段町東部、太秦京ノ道町南部、太秦宮ノ前町東部、太秦青木ヶ原町北部などに分布を確認した。

その他、平安時代の土壙、柱穴、遺物包含層は、太秦垂箕山町東部、太秦一丁芝町南部、嵯峨野嵯峨ノ段町南東部で検出している。また、厚さ 0.5m 前後を測る堅く叩き締まった路面 50 ～ 53・75・76・83 を、調査 9-36、調査 10-139 の常盤段ノ上町南端道路下、太秦京ノ道町南端道路下、太秦開日町中央南端道路下で検出した。

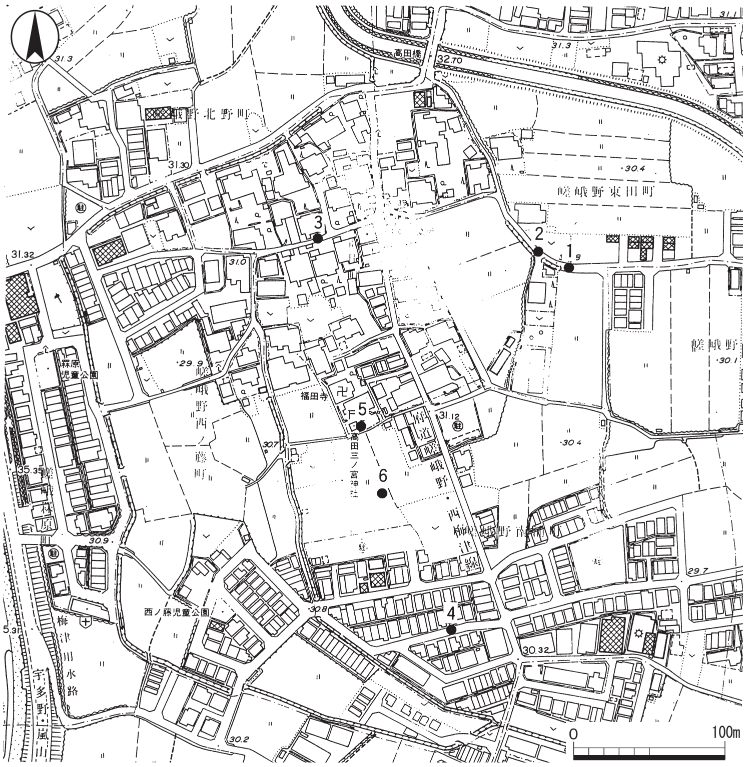


図 27　嵯峨野地区の遺構分布 (1:5,000)

嵯峨野地区

(図版 15　図 27)

この地区は、西北を有栖川で限り、南を梅宮大社北辺、西を桂川で限る一帯である。

調査 15-39 では 1 ～ 4 の遺構を検出した。調査 15-40 では地点 5、調査 15-41 では地点 6 で遺物を表面採取した。検出した遺構・遺物は、古墳時代後期、平安時代中期に属している。

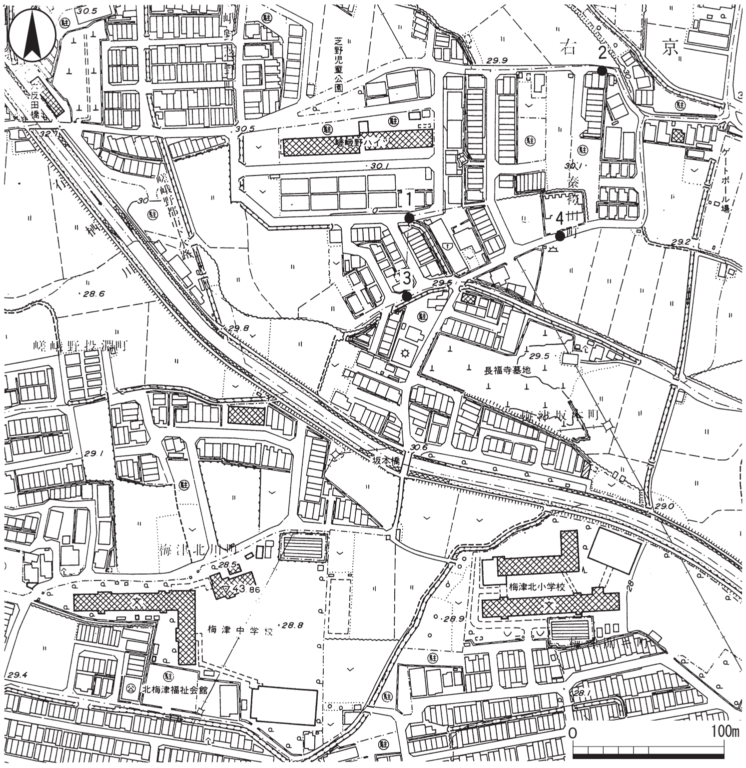


図 28　梅津 1 地区の遺構分布 (1:5,000)

古墳時代後期の遺物は、地点 5・6 で土師器・須恵器を表面採取した。地点 5 は、嵯峨野高田町にある高田三ノ宮神社境内である。地点 6 は、嵯峨野南浦町西部にある耕作地である。

平安時代中期の遺物包含層 1 ～ 4 を、調査 15-39 で検出している。地点 1 ～ 3 では、黄色泥砂

図 29　梅津２地区の遺構分布（1:5,000）

系の厚さ0.4m前後の堆積土層を確認している。地点4は、0.1mの厚さを持つ淡黄色泥砂層が堆積する。嵯峨野東田町南西部、嵯峨野高田町、嵯峨野南浦町南西部で検出した。

梅津1地区(図版15　図28)

この地区は、南に市立梅津小学校、市立梅津中学校がある。北西を西高瀬川で限り、南西を有栖川で限る。

調査15-35では、地点1～4で遺物を検出している。検出した遺物は、平安時代中期に属する。遺物包含層1・2は、厚さ0.8mで、それぞれ茶褐色砂泥層、茶灰色砂泥層の堆積を確認した。遺物包含層3は、厚さ0.3mの茶褐色砂泥層、遺物包含層4は、0.6mの淡黄灰色泥砂層が堆積する。嵯峨野芝野町南東端、太秦袴田町南西端、梅津坂本町北部に検出している。

梅津2地区(図版15・20　図29)

この地区は、東を府道太秦上桂線、南を東流する桂川で限られる。西は南流する桂川で限り、北では梅宮大社を北辺に含みこむ。

調査15-43では、地点1～8で遺構と遺物包含層を検出した。調査20-1では、地点9で土器を表面採取した。検出した遺構・遺物の時期は、平安時代前期・中期に属する。

平安時代前期の遺物包含層2・4・7を検出した。遺物包含層2は、厚さ0.4mの茶灰色泥砂層、遺物包含層4は、厚さ0.4mの茶褐色砂泥層、遺物包含層7は、厚さ0.8mの暗茶色泥砂層である。

その他、平安時代の溝5・8、遺物包含層1・3・6を、梅津罧原町南部、梅津フケノ川町南部、梅津前田町で検出している。

また、地点9の梅津中村町北東部の長福寺境内一帯で、平安時代前期・中期の土器・瓦類を表面採取した。

3　嵯峨・嵐山地域の遺構分布

当地域は嵯峨野の西域を占め、西は小倉山から松尾山、北は北嵯峨朝原山、東は広沢池から有栖川・桂川、南を松尾大社の北とする範囲である。史跡名勝には大覚寺御所跡、天龍寺庭園、嵐山があり、周知の遺跡には縄文土器散布地、甲塚古墳・大覚寺古墳群などの古墳や古墳群、嵯峨院跡、遍照寺跡など寺院跡がある。この地域を北嵯峨、化野、清涼寺西、大覚寺南、広沢、野々

図 30　嵯峨・嵐山地域の地区割り（1:20,000）

宮北、天龍寺、鹿王院、車折、嵐山北、嵐山南の11地区に分け、さらに各地区内を小地区（調査区）に分割した。以下、地区別に検出した遺構の分布について報告する。なお検出した遺物包含層は、室町時代後期までのものを地区別の遺構分布図と遺構分布表に表した。

北嵯峨地区（図版1・2・7・27　図31　表15）

当地区は北嵯峨の山地に西、北、東の三方を囲まれ、南に大きくひらけた地形で、有栖川が西側の谷から大覚寺を経て南東方向へ流れる。調査地は大覚寺周辺の北嵯峨北ノ段町、北嵯峨名古曽町他で、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡に比定されており、遺構の密度が高い地区である。調査区は1-1・2・8・10、7-12に該当する。

1-1　調査区は北嵯峨北ノ段町が該当し、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の範囲を含む。検出した遺構数は18で、土壙、柱穴、井戸、溝があり、遺構の時期は平安時代前期、室町時代前期・

図31　北嵯峨地区の遺構分布（1:5,000）

後期である。遺物包含層は8箇所で検出した。

平安時代前期に属する土壙22は北嵯峨北ノ段町の南部で検出した。平安時代の遺物包含層6・7はこの地区の遺跡隣接地で検出し、遺構分布域は、嵯峨院跡の遺跡範囲よりさらに北に広がる。室町時代前期の遺構には、井戸12、土壙21、遺物包含層11・19・20がある。柱穴14・16は共に根石を持ち、室町時代後期の遺物包含層13・17の下に位置する。これらの遺構を検出した調査区の中央部には、時期不明の遺構も含め建物跡などの遺構が集中している。また、江戸時代の遺物包含層も調査区南部で検出している。さらに、調査1-3では室町時代の五輪塔を採取した。

1-2 調査区は北嵯峨北ノ段町、北嵯峨名古曾町他が該当し、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の範囲に含まれる。検出した遺構数は80で、土壙、溝、石組、流路、湿地などがあり、遺構の時期は縄文時代中期、平安時代から江戸時代である。遺物包含層は31箇所で検出した。

名古曾滝北西50mの地点で、土壙103を検出した。土壙の埋土は鈍い黄褐色砂泥で、縄文時代中期の土器(図79-21)が出土している。近辺に、縄文時代の遺構があるとみられる。

平安時代前期の東西方向の溝113・134を検出した。溝113は東西5mにわたって確認し、南側に位置する溝134との距離は約15mである。溝134は、東を北に振る傾きを持っている。また、溝93は東西10mにわたって検出しており、下層に同時期の遺物を含んでいる。溝134の北30mに位置する東西方向の溝53は、平安時代前期の遺物包含層の下で検出した。名古曾滝の北で9世紀前半の遺物を含む土壙を8基と、この時期の遺物包含層を10箇所で検出している。なかでも、土壙126からは、土師器、緑釉陶器など9世紀前半の遺物(図52)が一括出土した。地点124・126では、厚さ1.15mの暗灰色泥土の湿地状堆積層を確認している。溜池の堤31では、地表下1.3mの位置で平安時代前期の遺物を検出した。この時期の堤改修時のものとみられる。平安時代中期の遺構には土壙130がある。

平安時代後期の土壙85・115、遺物包含層を15箇所で検出した。これらの土壙、遺物包含層は前期の遺構の分布範囲と重複し、さらに北、西に拡がって分布している。他に、時期不明の南北方向の溝111、南北方向の流路109などを検出したが、これらは室町時代の遺物包含層の下に位置し、周辺の状況から平安時代の可能性を持つ。

調査区の東端で検出した室町時代中期の南北方向の溝121は、幅1.2m以上、深さ0.8mと比較的規模が大きく、南北方向の溝122と重複する。調査区の南部では鎌倉時代、室町時代の遺物包含層を検出した。江戸時代の遺物包含層は全域に分布している。なお、北嵯峨山王町の調査1-3では、室町時代から江戸時代の陶磁器や瓦、北嵯峨名古曾町の調査2-16では、室町時代後期の土師器を採取した。さらに、調査区東方の北嵯峨赤坂町の調査2-15・17では、室町時代の土器類を採取している。

1-8 調査区は嵯峨観空寺明水町、北嵯峨北ノ段町他が該当し、東半が嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の範囲に含まれる。検出した遺構数は6で、土壙、柱穴、路面がある。遺物包含層は3箇所で検出した。

調査区の東側で、江戸時代の土壙141を検出した。時期不明の遺構には柱穴139、路面143がある。

嵯峨観空寺明水町で、平安時代の遺物包含層185～187を検出した。この遺物包含層は厚さ30～40cmの褐色系砂泥層で、分布範囲はさらに西側の嵯峨観空寺久保殿町に広がるとみられる。また、府道大覚寺平岡線の9箇所で江戸時代の遺物包含層を検出した。

1-10　調査区は北嵯峨北ノ段町が該当し、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の範囲に含まれる。検出した遺構数は6で、湿地と路面がある。遺物包含層は2箇所で検出した。

地点149・151の湿地状堆積層は連続し、この上面に平安時代の遺物包含層154が堆積している。また、有栖川の北でも同時期の遺物包含層152を検出している。調査区の中央で検出した路面147は、上層が江戸時代に属する。また、桃山時代、江戸時代の遺物包含層は調査区南部で検出した。調査1-7・11では、平安時代から室町時代の土器類、瓦を採取している。

7-12　調査区は北嵯峨北ノ段町、嵯峨大沢町他が該当し、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の範囲に含まれる。検出した遺構数は33で、土壙、柱穴、溝、流路、路面がある。遺物包含層は1箇所で検出した。

大覚寺の西で検出した平安時代後期の溝156は、幅1.6m、深さ0.8mで、南北方向13mにわたって検出した。土壙163は西側の肩部を検出しており、東側の肩部は大覚寺境内になる。埋土は腐植土を主体とし、部分的に砂の堆積層を含み、底には泥土の堆積がみられた。他に、大覚寺の南では桃山時代の柱穴187を検出している。

有栖川の南で検出した平安時代後期の遺物包含層155は、川の北に位置する遺物包含層152と同時期である。また、江戸時代の遺物包含層も府道大覚寺平岡線の3箇所で検出した。

化野地区（図版6　図32・33　表16）

小倉山の北東麓で、北に化野念仏寺、南に二尊院が位置し、愛宕道（府道京都・日吉・美山線）が南東から北西方向にのび、調査区を縦断する。調査地は化野念仏寺周辺の嵯峨鳥居本化野町、嵯峨鳥居本小坂町他で、史跡名勝嵐山に含まれる。調査区は6-1・3～5に該当する。

6-1　調査区は嵯峨鳥居本仙翁町、嵯峨鳥居本北代町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構数は2で、遺物包含層は1箇所で確認した。

愛宕道と瀬戸川に挟まれた地点では、旧耕作土層下は旧瀬戸川による厚い砂礫層の堆積となる。愛宕道の地点1・2で、路面堆積を検出した。路面堆積の上層には、江戸時代の遺物を含む。室町時代中期の遺物包含層1を嵯峨鳥居本仙翁町で検出した。なお、化野念仏寺の境内隣接地の調査6-2で常滑壷（図53-207）を採取した。

6-3・4　調査区は嵯峨鳥居本化野町、嵯峨亀山町が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれ、化野念仏寺に南接する。検出した遺構数は24で、墓壙、土壙があり、遺構の時期は平安時代末期、室町時代中期・後期、江戸時代である。遺物包含層や整地土層は7箇所で検出した。

平安時代末期の火葬墓13は、掘形内に自然石を組み合わせて幅約70cmの小石室を築いている。

掘形底部と石室上面には炭層が約10cmの厚さで認められる。石室内からは金銅製蓋付きの蔵骨器（図53 - 204・205）が出土した。また室町時代中期の土葬墓5は、掘形内に甕棺として備前大甕（図55 - 210）を据え、石蓋（図81-73）を乗せている。甕内からは人骨と副葬品が出土した。室町時代後期の火葬墓21からは火葬骨と土師器が出土した。他に整地土層14・29からは、石造五輪塔（図81-52・55・56・62・68・69）などが出土している。江戸時代の土葬墓15は、人骨の出土状況から膝を曲げた状態での埋葬と考えられ、副葬品には染付椀（図54-209）、銭貨などがある。火葬墓27・28からは火葬骨と染付椀が出土した。また、火葬墓10～12では、火葬骨と炭化物、焼土や石を確認しているが、墓壙内からは土器類が出土せず時期を特定できなかった。火葬墓の可能性がある土壙8・18・24では、炭化物や焼土を確認した。化野念仏寺に南接する幅11.5mの大規模な土壙20は、瓦処理土壙とみられ、多量の室町時代の瓦類（図75-237・238）、土器類、江戸時代の陶磁器と共に火葬骨、炭化物が出土した。その他に、土葬墓15の東6m地点では、染付椀（図54-208）を掘削排土中から採取した。またA地点では、信楽壷が出土[註1]している。

6-5　調査区は嵯峨鳥居本小坂町、嵯峨鳥居本六反町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれ、化野念仏寺の南東部隣接地である。検出した遺構数は6で、墓壙、土壙があり、遺構の時期は室

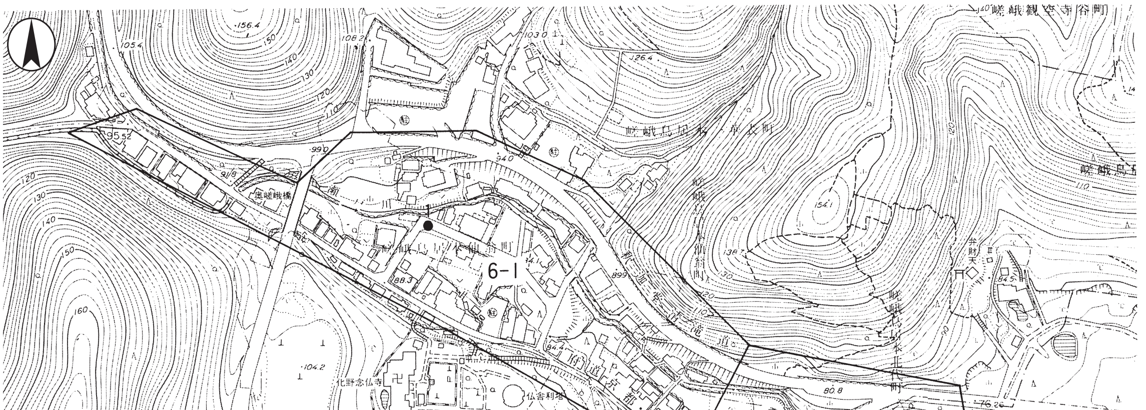
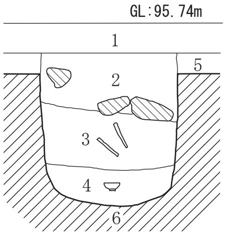


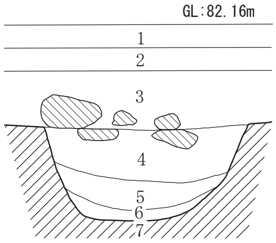
図32　化野地区の遺構分布（1:5,000）

墓15



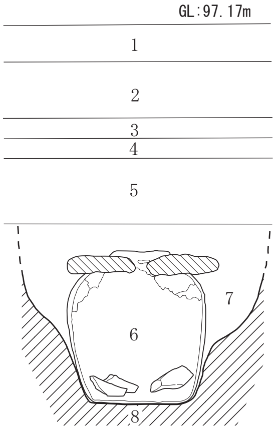
1　現代盛土
2　黄褐色砂泥(粘質)
3　にぶい黄色砂泥
(人骨含む)
4　暗灰黄色泥砂
(染付椀・銭貨含む)
5　褐色砂泥
6　黄色砂泥(地山)

墓40



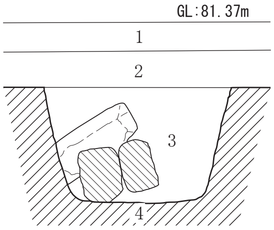
1　現代盛土
2　暗灰色砂泥(粘質)
3　赤褐色泥砂(河原石含む)
4　赤灰色砂泥
(粘質、瓦原石含む)
5　にぶい赤褐色砂泥
(火葬骨・土師器含む)
6　炭層(焼けた石含む)
7　黄褐色泥砂(地山)

墓5



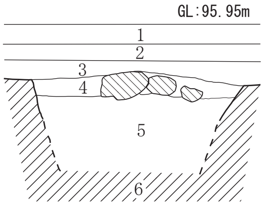
1　現代盛土
2　灰色泥砂
3　灰色泥砂(礫混)
4　灰黄褐色泥砂
5　黒褐色砂泥
6　甕棺
(人骨・副葬品含む)
7　黒褐色砂礫
8　暗赤褐色砂礫(地山)

土壙37



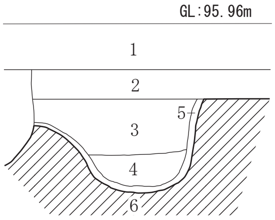
1　現代盛土
2　暗褐色砂泥
3　暗赤褐色砂泥
(焼土、石仏・五輪塔含む)
4　明黄褐色泥砂(地山)

墓11



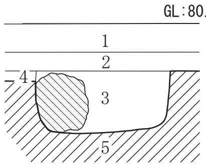
1　現代盛土
2　オリーブ黒色砂泥(礫混)
3　褐色砂泥(やや粘質)
4　黄褐色砂泥
(粘質、炭・焼土混)
5　黄褐色砂泥
(粘質、火葬骨・炭・焼土混)
6　黄褐色砂泥
(やや粘質、地山)

墓12



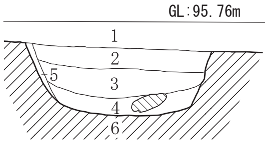
1　現代盛土
2　オリーブ褐色砂泥
3　にぶい黄色砂泥(炭混)
4　オリーブ黒色砂泥
(粘質、火葬骨・炭混)
5　焼土壁
6　黄色砂泥(地山)

土壙34



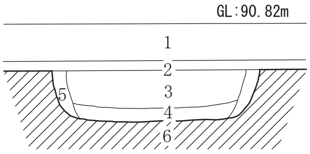
1　現代盛土
2　暗灰色砂泥
3　赤褐色砂泥(粘質)
4　暗灰色泥土
5　黄灰色砂泥(地山)

墓10



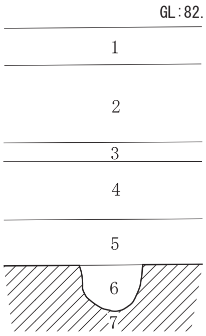
1　現代盛土
2　オリーブ褐色砂泥
(粘質、炭・焼土混)
3　黄褐色砂泥
(粘質、炭・焼土混)
4　明黄褐色砂泥
(火葬骨・炭・焼土混)
5　焼土壁
6　明黄褐色砂泥(粘質、地山)

土壙24



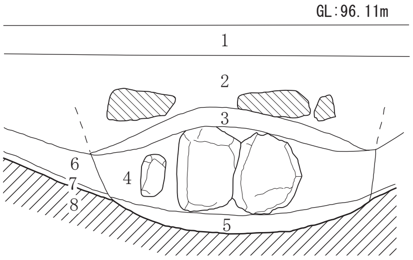
1　現代盛土
2　暗灰色泥砂
3　褐色砂泥(炭混)
4　暗褐色砂泥(炭混)
5　焼土壁
6　明黄褐色砂泥(地山)

墓21



1　現代盛土
2　明黄褐色泥砂
3　黒色泥砂
4　明黄褐色泥砂
5　にぶい黄褐色砂泥
6　暗褐色泥砂
(火葬骨・土師器含む)
7　褐色泥砂(地山)

墓13



1　現代盛土
2　黄褐色砂泥
3　炭層
4　オリーブ褐色砂泥
5　炭層
6　黄褐色砂泥(粘質)
7　焼土
8　オリーブ褐色砂泥(地山)

図33　化野地区の検出墓壙断面図(1:40)

町時代後期、江戸時代である。遺物包含層と整地土層は5箇所で検出した。

室町時代後期の火葬墓40からは火葬骨、土師器皿、焼土、炭化物が出土した。整地土層36・38・39からは五輪塔（図81-53・54・58～61・63～66）などの石造物が出土している。墓跡の可能性のある土壙34・37からは、石造物（図80-71）や焼土が出土した。また後亀山天皇嵯峨小倉陵の南の調査6-6では、鎌倉時代から江戸時代の土器類、瓦類を採取している。

清凉寺西地区（図版7　図34　表17）

当地は清凉寺の西側にあたり、瀬戸川が鳥居本から清凉寺を経て南東の方向へ流れる。調査地は嵯峨釈迦堂藤ノ木町、嵯峨二尊院門前中院町他である。調査区は7-1・14・17・18が該当する。

7-1　調査区は嵯峨鳥居本北代町が該当し、清凉寺の北西に接する。遺構や遺物の検出はなく、褐色系粘土の地山層の確認にとどまった。

7-14　調査区は嵯峨鳥居本仏餉田町、嵯峨鳥居本中筋町が該当し、清凉寺の北西に接する。遺構と遺物の検出はなく、褐色系粘土の地山層の確認にとどまった。

7-17　調査区は嵯峨二尊院門前善光寺山町、嵯峨二尊院門前北中院町が該当し、清凉寺の西に接する。清凉寺西の愛宕道で、路面1～5を検出した。これらは調査区6-1で検出した路面1・

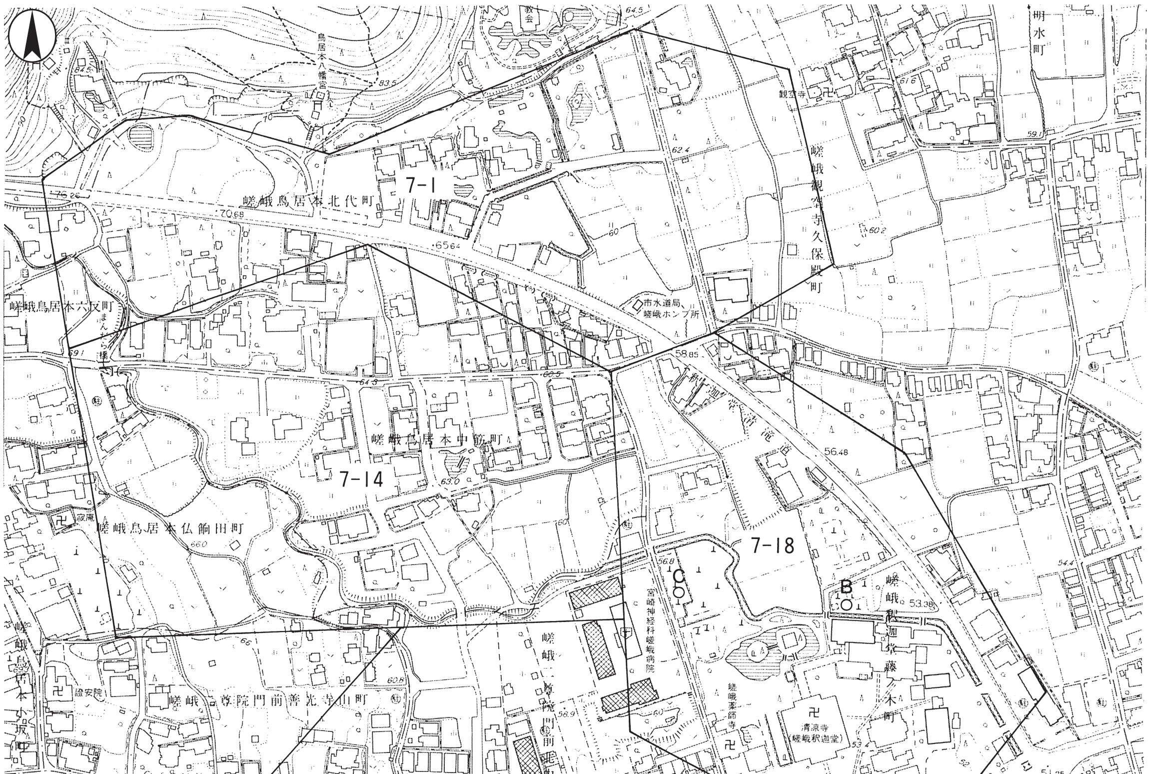


図34　清凉寺西地区の遺構分布（1:5,000）

2に繋がる。

7-18　調査区は嵯峨釈迦堂藤ノ木町が該当し、清涼寺の西に接する。現清涼寺の西築地に接する道路から江戸時代の瓦が出土した。B、C地点では、平安時代前期の軒瓦が出土[註2]している。

大覚寺南地区（図版7・8・28　図35　表18）

当地区は大覚寺の南側一帯で、西側が清涼寺に接し、北辺と東辺を有栖川が南東方向へ流れる。調査地は、嵯峨大覚寺門前井頭町、嵯峨大覚寺門前登リ町他であり、円山古墳を含む大覚寺古墳

図35　大覚寺南地区の遺構分布（1:5,000）

群が所在する。調査区は 7-15・16・19 ～ 21 が該当する。

7-15　調査区は嵯峨観空寺久保殿町、嵯峨大覚寺門前六道町が該当し、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の南西に隣接する。検出した遺構数は 7 で、土壙、流路、路面がある。遺物包含層は 3 箇所で検出した。

清涼寺の西側から大覚寺へ向かう現道路下では、路面 2 ～ 5 を検出した。土壙 8 は土師器微片を含むが、南北方向の流路 6・7 と共に時期不明である。今林陵周辺では、室町時代中期の遺物包含層 2・9・10 を検出している。

7-16　調査区は嵯峨大覚寺門前六道町、嵯峨大覚寺門前登リ町が該当し、円山古墳が所在し、嵯峨院跡・史跡大覚寺御所跡の南に隣接する。大覚寺と広沢池を結ぶ現道路下で路面 1 を検出した。小礫を多く含み堅く締まった層が 3 層堆積する。

7-19　調査区は嵯峨大覚寺門前宮ノ下町、嵯峨大覚寺門前堂ノ前町他が該当し、大覚寺古墳群が所在し、大覚寺の南東に隣接する。検出した遺構数は 16 で、土壙、溝、湿地、流路がある。遺物包含層は 2 箇所で検出した。

平安時代後期の遺物包含層 29 は、有栖川右岸で検出したが、近辺ではこの時期の遺構は未検出である。また、観音堂の東で土壙 25 を検出した。この土壙は室町時代前期の遺物包含層 26 の下に位置していた。さらに東に位置する土壙 15 ～ 18 も、埋土の状態からみて同時期の遺構とみられる。湿地 27・28 は同一の堆積で連続する遺構とみられ、流路 20・21 は有栖川の旧流路の可能性がある。遺物は未検出である。

7-20　調査区は嵯峨釈迦堂藤ノ木町、嵯峨大覚寺門前六道町他が該当し、清涼寺の東南部に接し、一部は境内に含まれる。検出した遺構数は 6 で、土壙、路面がある。遺物包含層は 4 箇所で検出した。

市営大覚寺住宅北部の土壙 31 は、幅 4m 以上を測り、暗灰色泥土層の埋土から江戸時代の土器ともに漆器椀が出土した。路面 35 は、小礫を多く含んだ堅く締まった 3 層からなり、調査区 7-15 で検出した路面 2 ～ 5 に続く。平安時代後期の遺物包含層 42 ～ 44 は、同住宅北部の 3 箇所で検出した。この遺物包含層は、調査区 1-2・7-21 で検出した同時期の遺構と関連するとみられる。また、嵯峨大覚寺門前井頭町北部では、土師器小片を含む遺物包含層を 9 箇所で検出した。これらは土層が近似しており、いずれも平安時代後期の可能性がある。また、江戸時代の瓦類を含む焼土層もこの付近で検出した。

7-21　調査区は嵯峨大覚寺門前宮ノ下町、嵯峨大覚寺門前八軒町が該当し、清涼寺の南に接し、一部は境内に含まれる。検出した遺構数は 8 で、土壙、溝、湿地、流路があり、遺構の時期は、平安時代後期、室町時代後期、桃山時代である。遺物包含層は 5 箇所で検出した。

調査区の南西部で検出した土壙 44 は、平安時代後期の土師器と小礫を多く含んでいる。土壙の周辺では、平安時代後期の遺物包含層 43・46・52 を検出した。土壙と遺物包含層は、調査区 7-20・8-67 で検出した同時期の遺構と関連する。また、室町時代後期の遺物包含層を平安時代後期の遺物包含層の範囲と重複して検出している。他に、調査区の南部では、桃山時代に属する

東西方向の溝51、時期不明の湿地50を検出している。

広沢地区（図版8・9・30　図36　表19）

当地区は広沢池の南西に位置し、西辺と南辺を有栖川が流れる。調査地は、嵯峨新宮町、嵯峨広沢御所ノ内町他で、縄文土器散布地、一本木古墳、稲荷古墳、広沢古墳群、遍照寺跡などの遺跡が所在する。調査区は8-46・48・51・52・63・64・66が該当する。

8-46　調査区は嵯峨釣殿町が該当し、縄文土器散布地と遍照寺跡の一部が含まれる。検出した遺構数は17で、土壙、溝、路面がある。遺物包含層は2箇所で検出した。

児神社の西から嵯峨七ツ塚の古墳群へ向かう道と、同神社の東から広沢池西岸を北上する現道路下で、堅く締まった8層からなる路面1（図版30-10）・9（図版30-7）、10・17を連続して検出した。また、同神社の境内南西部の地表がマウンド状を呈する部分の調査8-47で、古墳時代後

図36　広沢地区の遺構分布（1:5,000）

期に属する須恵器杯片を２点表面採取した。この地点の南西に隣接して古墳時代後期に築造された一本木古墳、広沢古墳群などがあり、このマウンドも同時期の古墳の可能性がある。

平安時代中期に創建された遍照寺に直接関する遺構は未検出であったが、広沢池の西岸で鎌倉時代の遺物包含層 19 を検出した。地点 12 の地表下 1.1m では、旧広沢池の洲浜とみられる石敷と池の堆積土層を確認しており、以前の広沢池の汀線はさらに西に存在したとみられる。また、調査区の北隣接地の調査 8-45 で平安時代中期の土器類、池の北西部の調査 8-43 では、布目瓦を採取しており、これらの遺物は遍照寺に関係するとみられる。なお、近年の調査[文353]では池の北西部で、方形基壇と周囲の雨落溝などが確認されている。

8-48　調査区は嵯峨広沢池下町が該当し、調査区内には広沢古墳群が含まれる。検出した遺構数は８で、土壙、路面がある。

広沢池南端の西部と東部の現道路下で、５層からなる路面 23 ～ 27(図版 30-4・5) を検出した。広沢池堤の地点 23 東では、地表下 1.5 ～ 2.3m で黒褐色砂泥層と黄灰色砂泥層の互層堆積を 20m 以上の距離にわたって検出した。これは、広沢池の旧堤の盛土とみられる。

8-51　調査区は嵯峨広沢西裏町、嵯峨広沢池下町が該当し、調査区内に縄文土器散布地、広沢古墳群が含まれる。検出した遺構数は 19 で、土壙、溝、路面がある。

調査区の中央を広沢池に向かって北上する現道路下で、小礫を多く含む堅く締まった９層からなる路面 35(図版 30-2)・42・43 などを連続して検出した。調査区の中央部では、桃山時代の遺物包含層を検出している。稲荷古墳の墳丘東裾部では、周溝に該当する遺構の検出はなかった。なお、稲荷古墳の墳丘上の調査 8-61 では平安時代の土器を採取した。

8-52　調査区は嵯峨一本木町、嵯峨広沢西裏町が該当し、調査区内に縄文土器散布地、一本木古墳が含まれる。検出した遺構数は７で、溝、流路がある。遺物包含層は５箇所で検出した。

南北方向の流路 48・50 ～ 52 は一連の遺構で、南北方向の流路 53 も同様と考えられる。これらの流路の西側で、室町時代後期の遺物包含層 55 ～ 58 を集中して検出しており、近辺にこの時期の遺構が存在するとみられる。また桃山時代の遺物包含層を、嵯峨一本木町北部の６箇所で検出した。

8-63　調査区は嵯峨新宮町が該当し、広沢池の南に隣接する。検出した遺構には時期不明の土壙 52 がある。また、調査区の北部で鎌倉時代の土師器、甎などを検出しており、この近辺に鎌倉時代に属する建物の存在が想定される。

8-64　調査区は嵯峨新宮町、嵯峨広沢西裏町他が該当し、広沢池の南に隣接する。検出した遺構には、時期不明の東西方向の溝 62 がある。平安時代後期の遺物包含層 59 ～ 61 は、広沢小学校の北西で検出した。

8-66　調査区は嵯峨新宮町、嵯峨広沢御所ノ内町他が該当し、有栖川の北に位置する。検出した遺構数は４で、土壙、路面がある。遺物包含層は 17 箇所で検出した。

嵯峨広沢御所ノ内町で検出した土壙 70 は、幅 1.0m、深さ 0.8m である。土壙壁は垂直で、埋土は黒灰色泥土を主体とし、地山の黄色粘土が混入する。この土壙は規模、形態、埋土の状態か

ら考えて墓壙の可能性がある。路面 72 は礫と砂の互層で堅く締まり、調査区 8-51 で検出した路面に続く。

有栖川北岸で飛鳥時代の遺物包含層 77 を検出した。また、輸入陶磁器などを含む平安時代後期の遺物包含層を 16 箇所で検出している。さらに、桃山時代、江戸時代の遺物包含層を 10 箇所で検出しており、これらの遺物包含層には平安時代中期、室町時代前期の遺物が混入する。

野々宮北地区（図版 7　図 37　表 20）

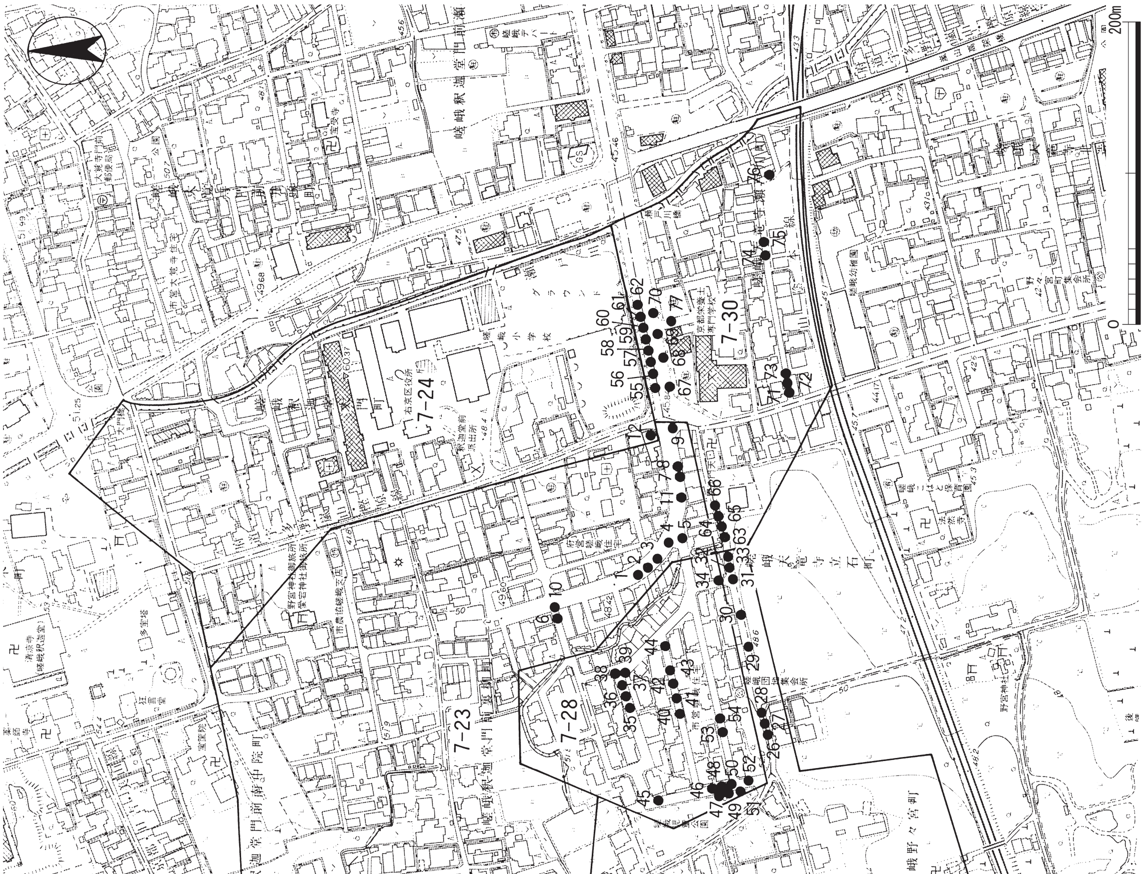


図 37　野々宮北地区の遺構分布（1:5,000）

当地区は小倉山の東麓で、北を清凉寺、南を野々宮神社までとし、東には瀬戸川が流れる。調査地は、嵯峨天龍寺立石町、嵯峨野々宮町他であり、西端が史跡名勝嵐山に含まれる。調査区は7-22 ～ 24・26 ～ 28・30 が該当する。

7-22　調査区は嵯峨二尊院門前長神町、嵯峨小倉山緋明神町が該当し、二尊院の東に隣接する。検出した遺構数は6で、土壙、路面がある。

調査区北端の愛宕道で路面79・80を検出した。これらの路面は調査区6-1で検出した路面1・2と調査区7-17で検出した路面1～5に繋がる。二尊院門前の北で検出した土壙82は、室町時代の遺物を含み、土壙81も埋土が近似しており同時期とみられる。

7-23　調査区は嵯峨釈迦堂門前南中院町、嵯峨釈迦堂門前裏柳町が該当している。清凉寺の南西に隣接し、一部檀林寺跡の推定地を含む。検出した遺構数は6で、柱穴、溝、路面がある。遺物包含層は5箇所で検出した。

調査区の南部で検出した路面1・4・5・7は、室町時代前期の遺物包含層の上面に成立する。南北方向の溝9は、清凉寺と渡月橋を結ぶ現道路 (府道宇多野・嵐山・樫原線) の西端部付近で検出した。埋土はレンズ状の堆積を呈しており、水が流れた痕跡が認められた。時期は確定できないが、街路側溝の可能性がある。溝9の西では、根石を持つ柱穴8を検出した。他に、平安時代後期、鎌倉時代、室町時代前期の遺物包含層を検出している。これらは、調査区7-27・28・30の遺物包含層と連続する。また、2箇所で江戸時代の遺物包含層を検出した。

7-24　調査区は嵯峨釈迦堂大門町が該当し、清凉寺の南に隣接する。調査区の南西隅の土壙12から、室町時代の瓦が出土している。

7-26・27　調査区は嵯峨小倉山堂ノ前町、嵯峨小倉山山本町他が該当している。西端は史跡名勝嵐山の範囲に含まれ、檀林寺跡の推定地を一部含む。検出した遺構数は13で、土壙、溝、路面があり、遺構の時期は平安時代後期、鎌倉時代、室町時代前期である。遺物包含層は8箇所で検出した。

平安時代後期の土壙22・31・32、遺物包含層20・23は、常寂光寺の東と市営嵯峨住宅の南部に分布している。同住宅南部の遺構群は、東に位置する調査区7-23・28・30の遺構と関連するとみられる。鎌倉時代の遺物包含層は、平安時代後期の遺物包含層の分布範囲とほぼ重複する。地点29では、平安時代後期の遺物と共に、平安時代前期の軒丸瓦 (図72-10・11) を含む多量の瓦が出土した。東西方向の溝26は、幅3.1m、深さ0.65mを測り、室町時代前期の遺物包含層の下で検出した。

小倉池東の地表下1.3mで堤16を検出した。室町時代前期の土師器が出土しており、堤改修時に混入したとみられる。他にも、室町時代前期と中期に属する遺物包含層を検出している。

7-28　調査区は嵯峨釈迦堂門前裏柳町、嵯峨天龍寺立石町が該当する。野々宮神社の北は、一部檀林寺跡の推定地である。検出した遺構数は12で、土壙、柱穴、井戸、溝があり、遺構の時期は鎌倉時代、室町時代前期である。遺物包含層は9箇所で検出した。

平安時代前期の遺物包含層38を市営嵯峨住宅の北部で検出した。鎌倉時代の土壙45は幅1.5m、

深さ0.9mを測り、焼締陶器鉢や輸入品の褐釉陶器四耳壷などが出土した。室町時代前期の井戸34は、内径0.8m以上、深さ1.75m以上の規模で、石組みを6段以上確認した。鎌倉時代の遺物包含層の下で、根石を持つ柱穴43を検出した。また、室町時代前期の柱穴48も根石を持つ。南北方向の溝40は拳大の川原石を多く含み、室町時代前期の遺物包含層を切り込んで成立している。調査区の西部では、江戸時代の遺物包含層も検出した。

7-30　調査区は嵯峨釈迦堂大門町、嵯峨天龍寺瀬戸川町が該当している。野々宮神社の北西に隣接し、檀林寺跡の推定地を一部含む。検出した遺構数は13で、土壙、溝、井戸があり、遺構の時期は平安時代後期、鎌倉時代、室町時代前期である。遺物包含層は10箇所で検出した。

嵯峨小学校の南で検出した南北方向の溝60は、幅1.0m以上、深さ1.3mと比較的規模が大きく、西に振れる傾きを持つ。埋土より平安時代中期から後期の遺物が出土した。平安時代前期の遺物包含層62を溝60の西側で検出した。この遺物包含層は、調査区7-28の遺物包含層と関連する。また、平安時代後期の焼土層、遺物包含層を6箇所で検出している。この遺物包含層は、調査区7-23・27・28の遺構、遺物包含層と関連する。溝60の西で検出した井戸58は方形で、底部付近に木枠が遺存していた。

また、清涼寺と渡月橋を結ぶ現道路の東端部付近で南北方向の溝71・72を検出した。室町時代前期の溝71は西肩に護岸の石組みが4段遺存していた。溝71の東肩部を一部壊して溝72は成立しており、溝を付け替えた様子がうかがえる。これらは、調査区7-23の南北方向の溝9と共に室町時代前期の街路側溝とみられる。他に、室町時代の遺物包含層を検出した。この遺物包含層は調査区7-23・27・28の遺構と遺物包含層と関連する。また、2箇所で江戸時代の遺物包含層を検出した。なお、嵯峨天龍寺瀬戸川町の調査7-29では、室町時代後期の土器類を採取している。

天龍寺地区（図版7・13・14　図38　表21）

当地区は天龍寺周辺で、北に野々宮神社が位置し、東側を瀬戸川、南側を大堰川が流れる。調査地は嵯峨天龍寺芒ノ馬場町、嵯峨天龍寺北造路町他で、西半部は史跡特別名勝天龍寺庭園・史跡名勝嵐山に比定されている。調査区は7-36～38・40・41、13-1・10が該当する。

7-36～38　調査区は嵯峨天龍寺北造路町、嵯峨天龍寺立石町他が該当し、西端が史跡名勝嵐山の範囲に含まれ、一部檀林寺跡の推定地を含む。検出した遺構数は44で、土壙、柱穴、溝、井戸、路面があり、遺構の時期は平安時代、室町時代、桃山時代、江戸時代である。遺物包含層は9箇所で検出した。

平安時代前期から中期の遺物を包含する溝7を東西10m以上にわたって検出した。この溝は、幅0.5m以上、深さ0.8mの規模で、東で北に約15度振れる傾きを持つ。平安時代後期と考えられる遺構には東西方向の溝41、南北方向の溝19、遺物包含層22がある。他に、平安時代中期の遺物包含層28を嵯峨天龍寺立石町南部で検出している。

室町時代前期の溝9は深さ0.45mで、室町時代中期の溝8は深さ0.45mである。両溝とも東西

方向で、溝8は、溝9南肩の一部を壊して成立している。両溝は約3mにわたって確認しており、共に傾き、規模、埋土が類似する。また、他に傾き、規模、埋土が類似している南北方向の溝を3箇所で検出している。溝38は室町時代中期、溝39は室町時代後期である。両溝の北の延長線上には溝29が位置しており、これらの溝は継続した同一の溝の可能性がある。調査区の全域で室町時代の遺物包含層を検出した。また、桃山時代の遺物包含層を3箇所、江戸時代の遺物包含層は5箇所で検出している。東西方向の溝19は、15m以上にわたって検出した。この溝は、幅0.7m、深さ0.6mであり、前述した溝7と同様に東で北に振れる傾きを持つ。南に位置する東西方向の溝7との距離は約240mである。なお、西に隣接する野々宮神社の境内の調査7-34で、平安時代の瓦を採取している。また、D、E地点では平安時代の軒瓦が出土[註3]している。

7-40・41、13-1 調査区は嵯峨天龍寺芒ノ馬場町が該当し、天龍寺境内から大堰川北岸までの範囲で史跡特別名勝天龍寺庭園・史跡名勝嵐山に含まれる。検出した遺構数は55で、土壙、柱穴、溝、井戸、石組、築地などがあり、遺構の時期は平安時代前期・後期、鎌倉時代から江戸時代である。遺物包含層は55箇所で検出した。

調査区の西端で平安時代前期の土壙100を検出した。埋土から、土師器、須恵器など9世紀初

図38　天竜寺地区の遺構分布（1:5,000）

頭の遺物（図51）が一括して出土した。平安時代前期の遺物包含層は、地点120～135で集中して検出した。平安時代中期の遺物包含層を地点159で検出している。南北方向の溝154は平安時代後期の溝で、幅1.9m、深さ1.0mの規模である。平安時代後期の遺物包含層は、44箇所で検出した。この遺物包含層は調査区の全域に広がり、平安時代前期の遺構分布範囲と重複する。

鎌倉時代の土壙88、柱穴132、溝151、井戸134、遺物包含層136を検出した。南北方向の溝151は幅1.0m以上、深さ0.65mの規模である。

室町時代前期の南北方向石組溝69（図版27-2）は、幅1.2m、深さ0.45mの規模で、東で北に振れる傾きを持つ。その西約86mで検出した南北方向の溝77は、幅1.05m、深さ0.45mの同様の石組溝である。両溝とも構造、規模、傾きが類似しており、両溝は同一時期の区画溝と考えられる。

室町時代から江戸時代の遺物包含層は調査区の全域に広がっており、その中で室町時代の遺物包含層は、遺物の出土量がもっとも多い。これらの遺物包含層には、平安時代後期の遺物が混入しており、凝灰岩片や礎石などが出土した地点（46西、76）がある。なお、調査7-33・39、調査13-2で平安時代前期の土器類、瓦を採取している。

13-10　調査区は嵯峨天龍寺造路町が該当し、臨川寺跡にあたり、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構数は1で、遺物包含層は6箇所で確認した。

清涼寺と渡月橋を結ぶ現道路の東沿いで、室町時代中期の南北方向の溝164を検出した。この溝は幅3.3m､深さ0.7mの規模で調査7-30の南北方向の溝71・72と同様に街路側溝である。他に、臨川寺の西側一帯では、室町時代の遺物包含層、焼土層を検出している。なお、大井神社の境内の調査13-11では、平安時代の瓦を採取した。

鹿王院地区（図版7・8・14　図39　表22）

当地区は、鹿王院とその北西部で嵯峨北堀町、嵯峨天龍寺今堀町他である。調査地は西側を瀬戸川、南側を桂川、西高瀬川が流れる。調査区は7-31、8-65・68・71・73・74が該当する。

7-31　調査区は嵯峨釈迦堂門前瀬戸川町、嵯峨天龍寺瀬戸川町他が該当し、天龍寺の北東に位置する。検出した遺構数は7で、土壙、溝、井戸があり、遺構の時期は室町時代、江戸時代である。遺物包含層は4箇所で検出した。

室町時代中期の円形の素掘り井戸4を検出した。井戸は深さ1.35m以上あり、埋土に川原石が多く含まれ、土師器、瓦類が出土した。この井戸の近辺では、室町時代の遺物包含層を検出している。土壙3・7は時期不明で、溝6は江戸時代である。

8-65　調査区は嵯峨大覚寺門前八軒町､嵯峨天龍寺中島町が該当し､天龍寺の北東に位置する。検出した遺構数は7で、土壙、井戸があり、遺構の時期は室町時代後期、桃山時代である。遺物包含層は2箇所で検出した。

室町時代後期の円形の素掘り井戸13（図版27-4）を検出した。井戸の深さは1.3m以上あり、埋土から土器類と共に輸入（図56-211）、国産（図56-212）各1点の天目椀が出土した。井戸の周辺では、この時期の遺物包含層を検出している。

8-68　調査区は嵯峨天龍寺若宮町、嵯峨天龍寺広道町他が該当し、天龍寺の北東に位置する。検出した遺構数は18で、土壙、溝があり、遺構の時期は室町時代である。遺物包含層は1箇所で検出した。

室町時代前期の平行する東西方向の溝36・37を検出した。溝36は幅2.0m、深さ1.1mで、底部に瓦と石を多く含み、平安時代の遺物が混入する。南に位置する溝37も同規模で、両溝間の距離は4.3mである。室町時代後期の遺物包含層の下で検出した土壙28～30は、いずれも幅1.0～1.4m、深さ約0.45mの規模である。土壙壁は垂直のものがあり、埋土は褐色土を主体とし、地山の黄色粘土が混入する。これらの土壙は規模、形態、埋土から考えて墓壙の可能性がある。

図39　鹿王院地区の遺構分布（1:5,000）

桃山時代の遺物包含層を嵯峨天龍寺広道町東部で検出した。平安時代の遺物が混入する江戸時代の遺物包含層も2箇所で検出した。なお、嵯峨天龍寺若宮町の調査8-67では、鎌倉時代から江戸時代の土器類を採取している。

8-71　調査区は嵯峨天龍寺車道町、嵯峨天龍寺今堀町他が該当し、天龍寺の東に位置する。検出した遺構数は18で、土壙、柱穴、溝、流路があり、遺構の時期は平安時代後期、室町時代後期、桃山時代である。遺物包含層は8箇所で検出した。

嵯峨天龍寺広道町南部で平安時代後期の土壙53・54、遺物包含層59・60を検出した。この遺構と遺物包含層は近接する調査区8-68・74の遺構群と関連する。

室町時代後期の遺構には、根石を持つ柱穴41と、有栖川東岸近くで検出した南北方向の溝51がある。また、調査区全域で室町時代の遺物包含層を検出し、桃山時代の土壙55と遺物包含層もJR嵯峨嵐山駅の南で検出した。瀬戸川東岸の地点42の南では、地表下0.8mで黄色粘土の地山層が認められた。

8-73　調査区は嵯峨天龍寺龍門町、嵯峨天龍寺角倉町が該当し、天龍寺の東に位置する。検出した遺構数は7で、土壙、溝があり、遺構の時期は平安時代、室町時代中期・後期、江戸時代である。遺物包含層は6箇所で検出した。

調査区中央で平安時代の東西方向の溝68を検出した。幅5.0m、深さ1.5m以上の規模で、埋土から土師器微片を出土している。室町時代中期の南北方向の溝72は、幅2.3m、深さ1.3mで、埋土から土師器と瓦が出土した。溝の肩口部と底部には炭が多くみられた。

嵯峨伊勢ノ上町では、飛鳥時代の遺物包含層76・77を検出した。また、嵯峨天龍寺角倉町で平安時代前期の遺物包含層79～81を検出している。両者の遺物包含層は、近接する調査区8-74の遺物包含層、遺構群に関連する。

室町時代中期、後期の遺物包含層を長慶天皇嵯峨東陵の東側4箇所で検出した。また、桃山時代の遺物包含層､焼土層は13箇所で検出しており､焼土層は陵の東側に集中する。同陵北側では、江戸時代の遺物包含層が認められた。

8-74　調査区は嵯峨天龍寺今堀町、嵯峨北堀町が該当し、天龍寺の東に位置する。検出した遺構数は11で、土壙、柱穴、溝、井戸があり、遺構の時期は、飛鳥時代、奈良時代、室町時代中期、桃山時代である。遺物包含層は46箇所で検出した。

嵯峨北堀町では飛鳥時代の柱穴107、土壙105・106・108から土師器片が少量出土した。また、奈良時代の土壙111からは、土師器皿(図50-134)が出土している。他に、鹿王院の西側で、室町時代中期の素掘りの井戸102、桃山時代の石組みの井戸82を検出している。

飛鳥時代の遺物包含層を調査区全域の14箇所で、平安時代前期の遺物包含層は調査区南部の5箇所で検出した。これらの遺物包含層は、調査区8-52の遺構群、遺物包含層と近接し、一連のものである。調査区全域で平安時代後期、室町時代中期・後期の遺物包含層を検出した。平安時代後期の遺物包含層は、18箇所で検出している。また、鹿王院や曇華院門跡周辺一帯では、桃山時代の遺物包含層を5箇所、江戸時代の遺物包含層を8箇所で検出している。

車折地区（図版 8・9・14・15・27・28　図 40　表 23）

当地区は車折神社の周辺で、北側と東側を有栖川、南側を西高瀬川が流れる。調査地は嵯峨折戸町、嵯峨梅ノ木町他で、北東隅に古墳時代後期に属する甲塚古墳が所在する。調査区は 8-69・70・72・75 ～ 77、14-19 が該当する。

8-69　調査区は嵯峨天龍寺油掛町、嵯峨折戸町他が該当する。検出した遺構数は 7 で、土壙、溝、路面があり、遺構の時期は平安時代である。遺物包含層は 6 箇所で検出した。

調査区中央部で土壙 9・11・12、東西方向の溝 10 を検出している。これらの遺構の上面には、平安時代後期の遺物包含層が堆積する。この遺物包含層は、調査区の中央部と西部で検出してお

図 40　車折地区の遺構分布（1:5,000）

り、調査区 8-70・72 の遺物包含層と遺構に関連する。他に、調査区の西端で路面 1・2 を検出しており、路面 2 では 4 層の路面を確認した。また、調査区の西半では、桃山時代、江戸時代の遺物包含層を検出している。

8-70　調査区は嵯峨甲塚町、嵯峨中又町が該当し、甲塚古墳が有栖川南岸に所在している。検出した遺構数は 6 で、土壙、溝、路面があり、遺構の時期は平安時代後期である。遺物包含層は 24 箇所で検出した。

甲塚古墳の西で土壙 16 を検出したが、出土遺物はなく、土壙上面には平安時代後期の遺物包含層が認められた。この遺物包含層は、調査区全域の 20 箇所で検出している。他に、有栖川南岸と並行する現道路下で路面 28・29・42 を検出した。この路面は、室町時代中期、桃山時代の遺物包含層の上層で検出している。また、鎌倉時代から江戸時代までの遺物包含層を数箇所で検出した。

8-72　調査区は嵯峨天龍寺油掛町、嵯峨折戸町他が該当する。検出した遺構数は 5 で、土壙、柱穴、溝があり、遺構の時期は平安時代後期である。遺物包含層は 34 箇所で検出した。

平安時代後期の柱穴 73(図版 28-2) は、径 0.3m、深さ 0.7m の規模で、柱痕が遺存していた。この近辺で検出した土壙 74 ～ 77 は、共に、幅 0.6m、深さ 0.2m の規模で、南北 0.6m の等間隔に並び、柱穴の可能性がある。また、東西方向の溝 63 は、平安時代後期の遺物包含層の下で検出したが、遺物は出土しなかった。平安時代後期の遺物包含層は、調査区全域の 30 箇所で検出した。

嵯峨折戸町で飛鳥時代の遺物包含層 49・54 を検出しており、調査区 8-75 の遺物包含層と遺構に関連がある。他に、室町時代後期の遺物包含層 52・53・82 を検出している。また他に、桃山時代の遺物包含層も検出した。

8-75　調査区は嵯峨折戸町、嵯峨梅ノ木町他が該当する。検出した遺構数は 2 で、遺物包含層は 12 箇所で検出した。

嵯峨梅ノ木町の東端で南北方向の流路 86 を検出した。流路内からは 6 世紀末に属するほぼ完形の須恵器壷 (図 50-138) が出土した。流路の西側では飛鳥時代の遺物包含層 85 を検出した。これは、近接する調査区 8-72 の遺物包含層に連続する。

調査区の西部では、平安時代後期の土器類、輸入陶磁器を含む遺物包含層を 4 箇所で検出しており、これらは、調査区 8-72・76 の遺物包含層、遺構群と一連のものである。他に、室町時代後期の遺物包含層を 4 箇所で検出している。

8-76　調査区は嵯峨中又町、嵯峨刈分町が該当する。湿地 95 の泥土堆積層は、厚さが 1.6m で、この堆積層は東にのびており、地点 96 が湿地の東肩になるとみられる。平安時代後期の遺物包含層を 5 箇所で検出しており、これらは、調査区 8-72 の遺物包含層と遺構に連続する。

8-77　調査区は嵯峨中通町、嵯峨朝日町が該当する。江戸時代の円形の石組井戸 102 は、内径は 1.0m、深さ 1.05m 以上、石組みを 9 段以上確認した。染付、瓦が出土している。

平安時代後期の遺物包含層は 4 箇所で検出しており、近接する調査区 8-72・76 の遺物包含層

や遺構群と関連がある。

14-19　調査区は嵯峨五島町、嵯峨蜻蛉尻町が該当する。検出した遺構数は 6 で、土壙、湿地、路面がある。

湿地 108 ～ 110 は腐植土の堆積土層で、桂川の左岸に近接しており、位置的にも桂川の旧流路に関わるとみられる。111、112 地点では、礫と砂が互層に堆積する路面を検出した。また、江戸時代の土壙 107 は、幅 1.0m、深さ 0.45m で、炭と焼土を多く含む。

嵐山北地区（図版 13・14　図 41　表 24）

当地区は桂川右岸北部で、桂川が北側から東側を流れ、西側は松尾山の裾部一帯である。調査地は西京区嵐山中尾下町、嵐山西一川町他で史跡名勝嵐山内に含まれる。調査区は 13-12、14-23 が該当する。

13-12　調査区は嵐山中尾下町、嵐山西一川町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構数は 17 で、土壙、湿地、路面がある。

調査区の南部で検出した湿地 15 ～ 17 には、厚さ 0.55 ～ 1.2m の砂泥層が堆積する。また、松尾山の東裾の現道路下で、路面を 10 箇所で検出した。この路面下層で土壙 2 と湿地 15 ～ 17 を検出したが、共に時期は不明である。他に、法輪寺の東で江戸時代の遺物包含層を検出している。

14-23　調査区は嵐山西一川町、嵐山東一川町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。

図 41　嵐山北地区の遺構分布（1:5,000）

検出した遺構数は3で、土壙、溝がある。

土壙19、溝20は、時期不明。東一ノ井用水路以東の調査区では、各所で厚い砂礫層の堆積を確認している。桂川の氾濫原と思われる。

嵐山南地区（図版14・19・28　図42　表25)

当地区は桂川右岸で、東側を桂川が南流し、西側は松尾山の裾部である。調査地は嵐山上海道町、嵐山谷ケ辻子町他で、大半が史跡名勝嵐山に含まれる。調査区は14-25・26・29～32・34が該当する。

図42　嵐山南地区の遺構分布（1:5,000)

14-26　調査区は嵐山上海道町、嵐山茶尻町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構数は 9 で、土壙、溝がある。遺物包含層は 16 箇所で検出した。

土壙 7 は幅 1.1m 以上、深さ 0.4m で、平安時代後期の土師器片が出土した。他に、備前壺 (図 57-213) が出土した桃山時代の土壙 14 がある。

平安時代中期の遺物包含層を、東一ノ井用水路沿いの 3 箇所で検出した。平安時代後期の遺物包含層は、調査区中央部の 12 箇所で検出している。この遺物包含層の分布範囲は広く、平安時代中期、室町時代の遺物包含層とも重複している。調査区の南西部で検出した江戸時代の遺物包含層には、平安時代前期の遺物が混入している。

14-29　調査区は嵐山山ノ下町、嵐山谷ヶ辻子町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構数は 19 で、土壙、溝、路面がある。遺物包含層は 1 箇所で検出した。

嵐山谷ヶ辻子町の北部で平安時代前期の東西方向の溝 44 を検出した。幅 1.6m、深さ 0.6m の規模で、断面形は逆台形を呈し、東で北に振る傾きを持つ。埋土から軒平瓦 (図 72-200 ～ 203) を含む瓦類が多量に出土した。他に、松尾山東裾の現道路 (物集女街道) 下で、路面を連続して検出した。中には路面堆積が 9 層からなる路面 34 がある。この路面は、調査区 13-12 で検出した路面に連続する。溝 44 の南東地点で、平安時代前期の遺物包含層を検出した。江戸時代の遺物包含層は嵐山山ノ下町北部の山際で検出している。

14-31　調査区は嵐山谷ヶ辻子町、嵐山風呂ノ橋町他が該当し、史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構は土壙 5 基がある。遺物包含層は 3 箇所で検出した。

調査区の北西部で平安時代後期の土壙 49 ～ 52 を検出した。土壙 49・52 は柱穴の可能性がある。平安時代前期の遺物包含層は 2 箇所で検出しており、平安時代後期の遺物包含層の分布範囲と重複する。これらは、調査区 14-26・29・34 で検出した遺構と遺物包含層に関連する。

14-34　調査区は嵐山山ノ下町、嵐山谷ヶ辻子町他が該当し、北端が史跡名勝嵐山の範囲に含まれる。検出した遺構数は 5 で、土壙、溝、路面がある。遺物包含層は 3 箇所で検出した。

調査区の中央部で平安時代後期の土壙 67、流路 68 を検出した。他に、松尾山東裾の現道路下で、6 層からなる路面を連続して検出している。この路面は、調査区 14-29、13-12 の路面と一連のものである。他に、平安時代中期の遺物包含層を 2 箇所で検出している。また、調査区の東半部で平安時代後期の遺物包含層から土師器、輸入陶磁器などが出土している。この時期の遺物包含層は、当地区よりさらに南に広がるとみられる。

註

1　昭和 46 年 (1971)、開発工事中に採取された壺で、蔵骨器として転用されたとみられる。第Ⅳ章 1b で報告している。

2　昭和 29・36 年 (1954・1961) に清涼寺境内で採取された軒瓦である。第Ⅳ章 2c で報告している。

3　昭和 50 ～ 54 年 (1975 ～ 1979) にかけて服部政義氏によって採取された軒瓦である。第Ⅳ章 2c で報告している。